

0001

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：基礎

世界人権宣言の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．すべての人は、生まれながらに自由で、尊厳と権利について平等である。
- イ．人の尊厳は、社会的役割を十分に果たせる場合に限り認められる。
- ウ．人権は、国が特別に認めた人だけに与えられる資格である。
- エ．介護を必要とする人の権利は、安全確保のため原則として制限される。

答え・解説

正答：ア

ア：世界人権宣言第1条は、すべての人が自由かつ尊厳と権利について平等に生まれるという原則を示している。
イ：尊厳は能力や役割の有無によって得たり失ったりするものではない。
ウ：人権は特定の人だけに付与されるものではなく、すべての人に普遍的に認められる。
エ：安全への配慮は必要だが、介護を必要とすること自体を理由に権利を包括的に制限することは適切でない。
総合解説：介護実践では、利用者を保護の対象としてだけでなく、尊厳と権利をもつ主体として捉えることが基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0002

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：標準

介護施設で、利用者Aさんが「今日は青い服を着たい」と希望した。職員は業務を早く進めるため、全員に同じ服を着てもらおうとしている。Aさんの尊厳を最も尊重した対応はどれか。

- ア．Aさんが選んだ服を着られるよう、必要な範囲で着替えを支援する。
- イ．職員の都合を優先し、全員同じ服に着替えてもらう。
- ウ．転倒予防を理由に、本人の希望を確認せず職員が服を決める。
- エ．選択に時間がかかるため、今後は服を選ぶ機会を設けない。

答え・解説

正答：ア

ア：日常生活上の選択を本人が行えるよう支えることは、個人の尊厳と自己決定を尊重する実践である。
イ：業務効率のみを理由に本人の選択を奪うことは、利用者本位の支援に反する。
ウ：安全上の具体的な問題がないのに、本人の意思確認を省いて職員が決めるのは適切でない。
エ：時間がかかることだけを理由に選択機会をなくすことは、自己決定を狭める。
総合解説：尊厳の保持は、抽象的な理念だけでなく、服装、食事、起床時刻など日々の具体的な選択を尊重することに表れる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0003

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：基礎

社会福祉士及び介護福祉士法に定められた介護福祉士の誠実義務について、正しいものはどれか。

- ア．担当する者が個人の尊厳を保持し、自立した日常生活を営めるよう、その者の立場に立って誠実に業務を行う。
- イ．所属事業所の利益を最優先し、効率的に業務を行う。
- ウ．利用者の家族の意向を本人の意向より常に優先する。
- エ．事故を防ぐため、本人の意思にかかわらず生活上の選択を職員が決定する。

答え・解説

正答：ア

ア：法第44条の2は、個人の尊厳の保持と自立した日常生活を目標に、本人の立場に立って誠実に業務を行うことを求めている。

イ：誠実義務の中心は利用者の尊厳と自立であり、事業所利益の優先ではない。

ウ：家族の意向は重要な情報だが、本人の意思を一律に上回るものではない。

エ：安全配慮は必要だが、本人の意思を一律に排除することは誠実義務の趣旨に反する。

総合解説：介護福祉士の法的義務は、本人の尊厳と自立を実践の中心に置くことを明確にしている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0004

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：標準

利用者Bさんは脳梗塞後の片麻痺がある。職員がBさんに対して「子どもみたいでかわいいですね」と繰り返し話しかけている。この関わりで最も問題となる点はどれか。

- ア．敬語を使わないことは、法律で一律に禁止されている。
- イ．片麻痺のある人には、会話による支援を行ってはならない。
- ウ．介護職員は利用者に親しみを示してはならない。
- エ．障害や介護の必要性を理由に、成人としての人格や尊厳を軽視するおそれがある。

答え・解説

正答：エ

ア：言葉遣いは関係性に応じて検討する必要があり、敬語を使わないこと自体が一律に違法ということではない。

イ：片麻痺があっても意思疎通の可能性を前提に関わるべきであり、会話を避ける理由にはならない。

ウ：親しみそのものが問題ではなく、本人を対等な成人として尊重しているかが重要である。

エ：本人の年齢、人格、価値観を尊重し、障害や要介護状態を理由に幼児扱いしないことが重要である。

総合解説：尊厳を守る介護では、利用者を年齢や障害の有無にかかわらず、一人の成人・権利主体として扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0005

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：標準

障害者権利条約の一般原則に含まれる考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．障害のある人の選択は、専門職の判断より常に優先順位が低い。
- イ．固有の尊厳、自己選択の自由を含む個人の自律、及び人の自立を尊重する。
- ウ．社会参加は、身辺動作が完全に自立した人に限って保障される。
- エ．障害のある人は保護の対象であり、意思決定の主体とはみなさない。

答え・解説

正答：イ

ア：条約は本人の自律と自己選択を重視しており、専門職が当然に優越するという考えではない。

イ：障害者権利条約第3条は、固有の尊厳、個人の自律、自己選択の自由、自立、非差別、社会への完全かつ効果的な参加などを一般原則としている。

ウ：参加の権利はADLの自立度を条件とするものではない。

エ：障害のある人を権利主体として捉え、必要な支援を受けながら意思決定できることを重視する。

総合解説：介護の場でも、支援が必要であることと、自己決定や権利主体性を失うことは同義ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0006

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：応用

利用者Cさんが入浴を拒否し、「今日は疲れている」と話した。皮膚トラブルなど緊急性は認められない。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．清潔保持が最優先なので、複数の職員で介助して入浴させる。
- イ．拒否の理由や希望を確認し、別の時間や方法も提案して本人と相談する。
- ウ．拒否した事実だけを記録し、以後は入浴を一切提案しない。
- エ．家族の同意が得られれば、本人が拒否していても入浴させる。

答え・解説

正答：イ

ア：緊急性がない状況で本人の拒否を無視して強制することは、尊厳や自己決定を損なう。

イ：本人の意思を尊重しつつ、必要な情報提供や代替案を示して選択を支えることが適切である。

ウ：一度の拒否だけで今後の支援機会をなくすのではなく、理由や状況を継続的に確認する必要がある。

エ：家族の意向だけで本人の明確な意思を置き換えることは適切でない。

総合解説：尊厳を支える介護では、本人の意思を確認し、必要性を説明しながら、できるだけ本人が納得して選べる方法を探る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0007

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：基礎

人権を尊重する介護の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人の能力や要介護度にかかわらず、権利をもつ主体として関わる。
- イ．判断に時間がかかる利用者には、職員が代わりに全て決める。
- ウ．施設に入所した時点で、生活上の権利の一部は当然に失われる。
- エ．家族が主介護者であれば、本人より家族の希望を優先する。

答え・解説

正答：ア

ア：人権は能力や居住場所によって失われるものではなく、介護を受ける人も権利主体である。

イ：時間がかかっても、理解しやすい情報提供や意思表示の支援を行うことが基本である。

ウ：施設入所は人権を失う根拠にはならない。

エ：家族の意向を尊重しつつも、本人の意思と権利を中心に支援する必要がある。

総合解説：介護の必要性が高いほど、本人の権利を代替してよいという考え方ではなく、必要な支援を加えながら権利行使を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0008

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：標準

介護職員が利用者の尊厳を守るために行う対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が大切にしてきた生活習慣や価値観を確認し、可能な限り支援に反映する。
- イ．介護方法を統一するため、利用者ごとの生活習慣は考慮しない。
- ウ．本人の価値観より、介護職員が望ましいと考える生活を優先する。
- エ．家族から聞いた情報があれば、本人への確認は不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：その人らしい生活を支えるには、本人の生活歴、価値観、習慣、希望を把握し、支援に反映することが重要である。

イ：標準化が必要な部分はあっても、個性を無視することは利用者本位の介護に反する。

ウ：専門職の価値観を本人に押しつけるのではなく、本人の希望を中心に検討する。

エ：家族の情報は参考になるが、可能な限り本人にも確認し、本人の意思を中心に据える。

総合解説：尊厳の保持は、本人の人生を一つの生活として理解し、その人らしさを具体的な支援に反映することによって実現される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0009

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：応用

介護の必要性が高い利用者の尊厳について、最も適切な記述はどれか。

- ア．意思表示が難しい人には、尊厳という考え方は適用しにくい。
- イ．全面的な介助が必要でも、その人の尊厳と権利は変わらず尊重される。
- ウ．身体介助が多いほど、本人の選択より職員の判断を優先してよい。
- エ．認知機能が低下した人は、権利より保護を優先するのが原則である。

答え・解説

正答：イ

ア：意思表示が難しい場合こそ、表情や生活歴など多様な手がかりを用いて意思を尊重する支援が必要である。

イ：尊厳と権利は、身体機能や認知機能の程度に応じて増減するものではない。

ウ：介助量の多さは、本人の選択を排除する根拠にはならない。

エ：保護が必要な場面でも、本人の権利と意思を可能な限り尊重する。

総合解説：支援の必要性和権利主体性は両立する。介護福祉職は、支援を受けながら本人が自分らしく生きられる条件を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0010

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：標準

利用者Dさんは施設で長年、朝食前に新聞を読む習慣がある。施設では業務上、起床後すぐに食堂へ移動することが標準となっている。Dさんから「今まで通り新聞を読んでから朝食にしたい」と希望があった。最も適切な対応はどれか。

- ア．施設の標準時刻を理由に希望を認めない。
- イ．新聞を読むことは介護に必要なため、家族に持ち帰ってもらう。
- ウ．本人の希望を聞かず、職員が最も効率的な時間割を決める。
- エ．Dさんの生活習慣を尊重し、安全や他の必要な支援と調整しながら実現方法を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：施設運営上の事情は検討材料になるが、それだけで本人の生活習慣を否定するのは適切でない。

イ：本人にとっての意味を確認せず不要と決めつけることは、その人らしさを軽視する。

ウ：本人の希望を確認しない一方的な決定は利用者本位ではない。

エ：生活の継続性や本人が大切にしてきた習慣を尊重し、実現可能な方法を検討することが尊厳を支える。

総合解説：介護は施設の日課に利用者を含わせるのではなく、本人のこれまでの生活と希望をできる限り継続できるよう環境を調整する営みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0011

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：基礎

利用者Eさんは転倒歴があるが、「自分で庭まで歩きたい」と希望している。介護福祉職の尊厳を重視した対応として最も適切なものはどれか。

ア．転倒リスクを本人と共有し、歩行補助具や見守りなど、希望をできるだけ実現できる方法を一緒に検討する。

イ．転倒歴があるため、本人の意思にかかわらず外出を全面的に禁止する。

ウ．本人が希望しているので、リスク評価や環境調整をせず一人で歩いてもらう。

エ．家族が反対しているため、本人には理由を説明せず外出させない。

答え・解説

正答：ア

ア：尊厳と安全を対立させて一方を全面的に捨てるのではなく、本人の希望を中心にリスクを共有し、より制限の少ない方法を検討する。

イ：危険があるだけで一律に行動を禁止すると、本人の自律や参加を過度に制限する可能性がある。

ウ：本人の希望を尊重することは、専門職として必要なリスク評価を放棄することではない。

エ：家族の懸念は共有しつつ、本人への説明と意思確認を省略してはならない。

総合解説：尊厳を支えるリスク対応では、禁止か放任かの二択ではなく、本人の価値観を確認し、環境調整や見守りなどで選択を実現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0012

人間の尊厳と権利擁護 > 人権・尊厳 | 難易度：標準

利用者Fさんは発語が難しく、職員は「意思が確認できないので、本人の希望はない」と考えている。この考え方を評価する記述として最も適切なものはどれか。

ア．発語の困難だけで意思がないと判断せず、表情、視線、行動、慣れたコミュニケーション方法などから意思表出を支援する必要がある。

イ．言葉で回答できない場合は、家族の意思を本人の意思として扱う。

ウ．発語が難しい利用者には、選択肢を示すと混乱するため意思確認を行わない。

エ．意思確認が困難な場合は、職員の経験だけで生活上の選択を決める。

答え・解説

正答：ア

ア：意思表出の方法は言語だけではない。本人に合った手段や環境を整え、可能な限り本人の意思を確認する。

イ：家族の情報は重要だが、家族の意思と本人の意思は同一ではない。

ウ：選択肢の数や提示方法を工夫し、本人が理解しやすく表現しやすい方法を探るべきである。

エ：専門職の経験は参考になるが、本人の意思や選好を確認する努力を置き換えるものではない。

総合解説：尊厳を守るには、意思表示能力を狭く捉えず、本人が意思を示せる条件を支援側が整える視点が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0013

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：基礎

ノーマライゼーションの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．障害のある人を専門施設に集約し、一般社会と分けて生活できるようにする。
- イ．障害のある人を、障害のない人と同じ能力水準に近づけることを最優先する。
- ウ．支援の必要性をなくすことができた人だけを地域社会に参加させる。
- エ．障害のある人を特別視せず、一般社会の中で普通の生活を送れる条件を整え、共に生きる社会を目指す。

答え・解説

正答：エ

ア：分離・隔離を前提とする考え方はノーマライゼーションと反対方向である。

イ：人を一定の能力基準に合わせるのではなく、生活条件や社会環境を整えることが中心である。

ウ：支援を受けながら地域で生活し参加することも含むため、支援不要を参加条件とはしない。

エ：内閣府はノーマライゼーションを、障害者を特別視せず一般社会の中で普通の生活を送れる条件を整え、共に生きる社会を正常な社会とする考え方として示している。

総合解説：ノーマライゼーションは、人を『普通』に変えるのではなく、誰もが普通の生活を送れる社会条件を整える考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0014

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：標準

ノーマライゼーションの理解として、誤解を避けた説明はどれか。

- ア．本人を社会の標準に合わせるのではなく、本人が地域で暮らし参加できるよう社会側の条件を整える。
- イ．本人の行動をできるだけ多数派の生活様式に統一することを意味する。
- ウ．専門施設で保護することが最も正常な生活だとする考え方である。
- エ．介助を受けず一人で生活できることを最終目標とする考え方である。

答え・解説

正答：ア

ア：ノーマライゼーションは、個人を『正常化』するのではなく、地域生活や参加を可能にする条件整備と共生を重視する。

イ：個人を多数派の生活様式に同化させる考え方ではない。

ウ：分離された環境を当然とするのではなく、一般社会で生活できる条件を重視する。

エ：必要な支援を受けながら自分らしく暮らすことも自立した生活に含まれる。

総合解説：ノーマライゼーションは、支援の有無ではなく、地域で当たり前の生活を選べる機会と環境を重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0015

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：標準

WHOのQOL（Quality of Life）の考え方に最も近いものはどれか。

ア．ADL得点だけで客観的に決まる指標である。

イ．病気や障害がないことだけを意味する。

ウ．自分が置かれた文化や価値体系の中で、目標や期待などとの関係から自分の生活をどう認識しているかという主観的な概念である。

エ．所得や住宅面積など、外部から測定できる条件だけで決まる。

答え・解説

正答：ウ

ア：ADLは生活機能の重要な側面だが、QOLそのものを単独で決める指標ではない。

イ：QOLは健康状態だけではなく、本人の生活全体についての認識を含む。

ウ：WHOはQOLを、文化や価値体系、本人の目標・期待・基準・関心との関係における、自分の生活上の位置づけについての認識としている。

エ：客観的な生活条件は影響要因になり得るが、QOLはそれだけに限定されない。

総合解説：QOLを評価するときは、支援者が外から決めつけず、本人が何を大切にしているかを確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0016

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：応用

QOLと介護の関係について、最も適切なものはどれか。

ア．身体機能の改善だけでなく、本人が大切にしている活動や人間関係、役割などを含めて生活の質を考える。

イ．介護では身体機能が改善すれば、本人のQOLは必ず向上する。

ウ．QOLは主観的な概念なので、支援計画では扱う必要がない。

エ．QOLは介護職ではなく医師だけが評価する。

答え・解説

正答：ア

ア：QOLは生活全体に関わるため、本人が大切にしている生活、活動、参加、関係性などを含めて支援を考える。

イ：身体機能の改善はQOL向上につながる場合があるが、本人の価値や生活との関係によって結果は異なる。

ウ：主観性があるからこそ、本人の希望や満足を支援計画に反映することが重要である。

エ：QOLは医療だけの概念ではなく、介護を含む生活支援でも重要な視点である。

総合解説：介護では『できること』だけでなく、『本人にとって意味のある生活ができているか』を捉える視点が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0017

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：基礎

利用者Gさんは施設入所後も、毎週近所の囲碁仲間と交流したいと希望している。ノーマライゼーションとQOLの観点から最も適切な支援はどれか。

- ア．施設入所者は施設内活動に参加するのが原則なので、外部交流を中止する。
- イ．囲碁はADL改善に直接つながらないため、支援対象としない。
- ウ．移動手段や安全面を調整し、本人が望む交流を継続できる方法を検討する。
- エ．本人の希望より、職員が用意した集団レクリエーションを優先する。

答え・解説

正答：ウ

ア：入所は地域との関係を断つ理由ではなく、可能な範囲で生活の継続を支援する。

イ：直接的な身体機能改善だけが介護の目的ではない。

ウ：地域での人間関係や本人が大切にする活動の継続は、社会参加とQOLの重要な要素である。

エ：標準的な活動を一律に優先するのではなく、本人の価値観を反映する。

総合解説：ノーマライゼーションとQOLの視点では、利用者が地域の一員として関係や役割を持続けられるよう支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0018

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：標準

QOLを高める支援を検討するとき、最も重要な姿勢はどれか。

- ア．一般的に高齢者が好むとされる活動を一律に提供する。
- イ．身体機能の検査結果だけで生活目標を決める。
- ウ．本人が何を大切にし、どのような生活を望んでいるかを確認する。
- エ．家族の満足度を本人のQOLとみなす。

答え・解説

正答：ウ

ア：年齢や属性から本人の好みを推定し一律に支援するのは個性を欠く。

イ：身体機能は一要素であり、生活全体の質を決める唯一の要因ではない。

ウ：QOLは本人の認識や価値観と深く関係するため、本人の目標、期待、関心を確認することが中心となる。

エ：家族の満足も重要だが、本人のQOLと同一ではない。

総合解説：支援者が考える『良い生活』ではなく、本人が大切にしている生活を把握して支援目標に反映することがQOL支援の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0019

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：基礎

疾患が残っている利用者のQOLについて、最も適切な記述はどれか。

ア．疾患が完治しない限りQOLは向上しない。

イ．疾患や障害が残っていても、本人が大切にする生活や関係を実現できればQOLが高まる可能性がある。

ウ．要介護度が高い人はQOLを評価する意味がない。

エ．QOLは身体機能に反比例して一律に低下する。

答え・解説

正答：イ

ア：健康状態は重要だが、完治がQOL向上の必要条件ではない。

イ：QOLは疾患の有無だけで決まらず、本人の価値観、生活環境、社会関係、活動など多様な要素の影響を受ける。

ウ：介護度にかかわらず本人の生活の質を考える必要がある。

エ：身体機能とQOLの関係は個人によって異なり、一律には決まらない。

総合解説：介護は治癒だけを目標にするのではなく、病気や障害と共にあっても本人が望む生活を実現できるよう支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0020

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：応用

利用者Hさんは歩行訓練により歩行距離が伸びたが、「友人と喫茶店に行けなくなって寂しい」と話している。QOLの視点での評価として最も適切なものはどれか。

ア．歩行距離が伸びたのでQOLは向上したと結論づける。

イ．友人との交流は医療行為ではないため支援目標から外す。

ウ．身体機能の改善だけで評価を終えず、友人との交流という本人にとって意味のある生活の実現も評価する。

エ．外出は転倒の可能性があるため、本人の希望を確認せず中止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：客観的な機能改善と本人の生活満足は一致するとは限らない。

イ：介護では生活全体を支えるため、意味のある交流も重要な支援対象となる。

ウ：QOLは身体機能だけではなく、本人が重要と考える社会関係や活動を含む。機能改善が生活上の目的につながっているかを確認する必要がある。

エ：リスクは評価し調整すべきであり、本人の希望を一律に排除する理由にはならない。

総合解説：QOLを重視する支援では、機能訓練の成果を『本人が望む生活につながったか』という視点でも評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0021

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：標準

利用者IさんのADLは向上したが、本人は「自分で何でもやらされるようになり、好きな読書の時間が減った」と訴えている。QOLを重視した対応として最も適切なものはどれか。

- ア．ADLが向上しているため、本人の訴えは支援計画に反映しない。
- イ．ADL向上だけを目標とせず、本人の希望や負担、読書の時間を含めて支援方法を再検討する。
- ウ．自立支援では全て自分で行うことが重要なので、介助を減らし続ける。
- エ．読書は余暇活動なので、介護計画上の優先度を一律に低くする。

答え・解説

正答：イ

ア：客観的機能だけで支援成果を決めると、本人の生活満足を見落とす。

イ：QOLは本人が大切にしている生活を含むため、ADLの向上が本人の望む生活を損なっていないかを評価する必要がある。

ウ：自立は『何でも一人で行うこと』ではなく、必要な支援を使いながら本人が望む生活を選ぶことを含む。

エ：余暇や楽しみも生活の質を構成する重要な要素である。

総合解説：QOLと自立支援を統合すると、本人が能力を活かすことと、本人が大切にしている時間・活動を守ることの両方を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0022

人間の尊厳と権利擁護 > ノーマライゼーション・QOL | 難易度：標準

ノーマライゼーションとQOLの両方に共通する介護実践上の視点として、最も適切なものはどれか。

- ア．支援者が標準的と考える生活様式に本人を適応させる。
- イ．本人を地域社会の一員として捉え、本人の望む生活や参加を実現できる条件を整える。
- ウ．身体機能の向上を、本人の希望にかかわらず最優先する。
- エ．リスクをなくすため、地域との関係をできるだけ減らす。

答え・解説

正答：イ

ア：本人を一律の生活様式に合わせることは、個性性と共生の理念に反する。

イ：ノーマライゼーションは共生と社会参加の条件整備を、QOLは本人が大切にしている生活の質を重視する。両者とも本人主体の生活支援につながる。

ウ：身体機能は重要だが、本人の生活目標と切り離して絶対視しない。

エ：リスク管理は必要だが、参加や関係を一律に減らすことは本人の生活の質を損なう可能性がある。

総合解説：介護福祉職は、本人の望む暮らしを基準に、地域参加、環境調整、必要な支援を組み合わせることで生活の質を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0023

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：基礎

厚生労働省の意思決定支援の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．意思決定が難しいと判断した時点で、家族が本人に代わって決める。

イ．専門職が合理的と考える選択を本人に従ってもらう。

ウ．本人が可能な限り自ら意思決定できるよう支援し、意思や選好の確認・推定を行い、それでも困難な場合に最後の手段として最善の利益を検討する。

エ．本人の意思確認より、支援の効率を優先する。

答え・解説

正答：ウ

ア：家族は重要な支援者だが、直ちに本人の決定を代替するものではない。

イ：専門職の価値観で本人の選択を置き換えることは意思決定支援ではない。

ウ：意思決定支援では自己決定の尊重を原則とし、意思形成・表明を支え、意思・選好の推定を尽くした上で、最善の利益は最後の手段として検討する。

エ：効率ではなく、本人の意思が生活に反映されることが中心である。

総合解説：意思決定支援は、本人の決定能力を奪う仕組みではなく、本人が決めるための条件を整える支援である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0024

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：標準

本人の自己決定を支える情報提供として、最も適切なものはどれか。

ア．情報が多いほどよいので、専門用語を使って全て一度に説明する。

イ．判断が遅い場合は、説明を省略して職員が決定する。

ウ．本人の理解の仕方に合わせ、絵や具体物なども用いて選択肢と結果を分かりやすく説明する。

エ．本人が不合理に見える選択をしそうな場合は、選択肢そのものを示さない。

答え・解説

正答：ウ

ア：情報量だけでなく、本人が理解できる形に調整することが重要である。

イ：判断に時間がかかることを理由に本人の意思決定機会を奪ってはならない。

ウ：本人が理解し比較しやすい方法で情報を提供し、安心して意思表示できる環境を整えることが意思決定支援の基本である。

エ：他者の権利を侵害しない限り、支援者から見て不合理に見える選択も尊重する姿勢が求められる。

総合解説：意思決定支援では、情報を『伝えた』だけでなく、本人が理解し、比較し、意思を表現できるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0025

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：応用

意思や選好を確認する努力を尽くしても本人の意思を推定することが困難な場合、意思決定支援で検討されるものはどれか。

- ア．本人にとっての最善の利益を、最後の手段として検討する。
- イ．職員にとって最も効率的な方法を採用する。
- ウ．家族の希望を無条件に本人の意思とみなす。
- エ．過去の施設ルールをそのまま適用する。

答え・解説

正答：ア

ア：厚生労働省のガイドラインでは、本人の意思・選好の確認や推定を尽くしても困難な場合に、最後の手段として最善の利益を検討する。

イ：効率は本人の最善の利益と同義ではない。

ウ：家族の情報は重要だが、本人の意思・選好の推定材料の一つであり、無条件に置き換えるものではない。

エ：施設ルールは本人の個別状況や権利を踏まえて検討されるべきである。

総合解説：最善の利益は、本人の意思確認を省略するための近道ではなく、意思決定支援を尽くした後の最終的な検討手段である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0026

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：標準

利用者Jさんは糖尿病の食事療法中だが、「誕生日には甘いケーキを食べたい」と希望した。意思決定支援として最も適切な対応はどれか。

- ア．健康上のリスクがあるため、本人に説明せずケーキを禁止する。
- イ．本人の自己決定なので、健康上の説明や支援を一切せず希望どおりにする。
- ウ．家族が反対すれば、本人の希望は検討しない。
- エ．本人の希望を尊重し、健康上のリスクを分かりやすく説明した上で、量や代替品など実現可能な方法を本人と検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：一方的な禁止は本人の意思決定を過度に制限する。

イ：自己決定の尊重は、必要な情報提供やリスクへの備えを放棄することではない。

ウ：家族の意見は参考にするが、本人の意思を無条件に排除する根拠にはならない。

エ：本人の決定結果に不利益が予想される場合でも、選択を最大限尊重しつつ、予測されるリスクと対応方法を一緒に検討する。

総合解説：意思決定支援では、本人の望みと安全・健康への配慮を対立させず、情報提供と代替案によって本人が選べる条件を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0027

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：基礎

意思決定支援を行う環境について、最も適切なものはどれか。

- ア．意思は本人の内面だけで決まるので、環境の影響は考慮しなくてよい。
- イ．初めての場所の方が公平なので、必ず慣れない場所で決定を求める。
- ウ．本人が安心して意思を表しやすい人間関係、場所、時間、コミュニケーション方法を整える。
- エ．家族や職員が多いほど意思表示しやすいため、人数は多い方がよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：環境や関係性は意思表出に影響する。

イ：慣れない場所では緊張して普段どおりの意思表示が難しくなることがある。

ウ：意思決定は人的・物理的環境や経験の影響を受けるため、本人が安心して意思を表せる条件を整える必要がある。

エ：人数が多いことが本人に圧力となる場合もあり、本人に合った環境を考える必要がある。

総合解説：本人の意思を『引き出す』のではなく、本人が意思を形成・表明しやすい環境を支援側が整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0028

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：標準

介護福祉士による権利擁護の実践として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が必要なサービスを選び利用できるよう、本人の希望を確認し、必要に応じてそのニーズを関係者に伝える。
- イ．事業所の都合に合うサービスだけを本人に紹介する。
- ウ．本人が意思を表しにくい場合は、権利擁護の対象外とする。
- エ．本人の希望と異なっても、専門職の判断を優先して代弁する。

答え・解説

正答：ア

ア：日本介護福祉士会の倫理基準は、利用者が望む福祉サービスを適切に受けられるよう権利を擁護し、ニーズを代弁することを示している。

イ：選択肢を事業所都合で狭めると、本人の権利と選択を損なう。

ウ：意思表出が難しい人ほど、意思確認方法を工夫し権利を守る支援が必要である。

エ：代弁は専門職の希望を押しつけることではなく、本人のニーズや意思を社会や関係者に伝えることである。

総合解説：権利擁護では、本人の意思を中心に、必要な情報、サービス、社会資源へのアクセスを支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0029

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：応用

利用者Kさんは自宅生活の継続を強く希望しているが、家族は「施設に入所させたい」と話している。本人には意思を理解し表現する力があり、自宅生活には一定の支援調整が必要である。最も適切な対応はどれか。

ア．家族が介護を担うため、家族の希望をそのまま決定とする。

イ．本人の希望を中心に確認し、家族の負担や懸念も把握した上で、在宅サービスや安全対策など実現可能性をチームで検討する。

ウ．本人の希望だけを聞き、家族の介護負担や安全上の課題は検討しない。

エ．意見が対立しているので、職員が本人と家族に知らせず入所手続きを進める。

答え・解説

正答：イ

ア：家族の負担は重要だが、本人の意思を自動的に置き換えるものではない。

イ：本人が意思決定できる状況では本人の自己決定を中心にしつつ、家族の負担やリスクも共有し、必要な社会資源を検討する。

ウ：本人中心であっても、生活実現に必要な家族支援や安全面を無視してはならない。

エ：本人・家族を意思決定プロセスから外すことは不適切である。

総合解説：権利擁護は本人の希望を一方的に通すことでも、家族に従うことでもなく、本人の自己決定を中心に必要な条件を具体的に整える支援である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0030

人間の尊厳と権利擁護 > 権利擁護・意思決定支援 | 難易度：標準

認知症が進行し、言葉による意思確認が難しい利用者Lさんの生活場所を検討している。意思決定支援として最も適切な方法はどれか。

ア．過去の発言、生活歴、日常の表情や行動、好み、関係者からの情報などを集め、本人の意思や選好をチームで推定する。

イ．本人が言葉で説明できないため、最も近い家族の希望だけで決める。

ウ．施設の空き状況だけを基準に生活場所を決める。

エ．意思確認が難しいので、過去の本人の価値観や生活歴は考慮しない。

答え・解説

正答：ア

ア：本人の意思確認が難しい場合でも、生活史や日常の反応、過去の意思表示など多様な情報から本人の意思・選好を推定する努力が求められる。

イ：家族は重要な情報源だが、家族の希望そのものを本人の意思とみなすことはできない。

ウ：サービス供給側の事情だけで本人の生活場所を決めるのは本人中心ではない。

エ：生活歴や価値観は本人の意思・選好を推定する重要な手がかりである。

総合解説：意思決定能力を一律に『ある・ない』とみなすのではなく、本人の意思を可能な限り知るための情報と支援方法を積み重ねる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0031

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：基礎

介護における「自立」の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．他者の支援を一切受けずに生活することだけを意味する。
- イ．身辺動作をすべて一人で行える状態だけを意味する。
- ウ．必要な支援を活用しながら、自分の生活について自ら選び、主体的に暮らすことを含む。
- エ．介護職員の指示どおりに生活できることを意味する。

答え・解説

正答：ウ

ア：支援を受けることと自立は両立する。

イ：ADLの自立度は自立の一側面であり、自己決定や社会参加も重要である。

ウ：自立は『何でも一人で行うこと』に限定されず、必要な支援を利用しながら本人が自分の生活を選択・決定することを含む。

エ：支援者に従うことではなく、本人が主体となることが自立支援の中心である。

総合解説：介護福祉職は、できないことを代行するだけでなく、本人が選び、能力を活かし、必要な支援を使って生活できるよう支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0032

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：標準

自己決定を支えるための基本的な関わりとして、最も適切なものはどれか。

- ア．専門職が最善と判断した案だけを提示する。
- イ．本人が迷った場合は、直ちに職員が代わって決める。
- ウ．意思決定に時間がかかる人には、選択の機会を減らす。
- エ．本人が理解できる情報と現実的な選択肢を示し、考える時間を確保する。

答え・解説

正答：エ

ア：一つの案だけでは、実質的な選択にならない場合がある。

イ：迷うことも意思決定の過程であり、支援を工夫する前に代行すべきではない。

ウ：時間がかかることを理由に選択機会を奪うのは不適切である。

エ：自己決定には、理解可能な情報、選択肢、意思表出の機会、十分な時間が必要である。

総合解説：本人が選べる環境をつくることは、自己決定を尊重する介護の具体的な方法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0033

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：基礎

利用者Mさんは朝、赤と青の2枚のシャツを見せると赤を指さした。自己決定を尊重する対応として最も適切なものはどれか。

- ア．言葉で理由を説明できないため、職員が青を選ぶ。
- イ．家族が青を好むと話していたため、本人の指しは無視する。
- ウ．毎日同じ服の方が管理しやすいので、選択を求めない。
- エ．Mさんが示した赤いシャツを選択として受け止め、必要な着替え支援を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：理由を言語化できることは、選択を尊重する条件ではない。

イ：家族の好みと本人の好みは区別する必要がある。

ウ：管理のしやすさより、本人が日常生活で選ぶ機会を持つことが重要である。

エ：言語だけでなく、指さしなど本人が可能な方法で表した選択を尊重する。

総合解説：自己決定支援では、本人の残存能力やコミュニケーション手段を活かして、日常の小さな選択を積み重ねる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0034

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：標準

自立支援の観点から、介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．時間短縮のため、できる動作も含めて全て介助する。
- イ．失敗を防ぐため、本人には動作を行ってもらわない。
- ウ．本人ができる動作を確認し、必要な部分だけを支援する。
- エ．本人が疲れていても、必ず全て自分で行うよう求める。

答え・解説

正答：ウ

ア：過剰介助は本人の能力を使う機会を減らす可能性がある。

イ：安全への配慮は必要だが、失敗の可能性だけで活動機会を奪うのは適切でない。

ウ：自立支援では本人の能力を活かし、できる部分は本人が行えるようにし、必要な部分に支援を補う。

エ：自立支援は介助を減らすこと自体が目的ではなく、本人の状態や希望に合わせる。

総合解説：自立支援は『介助しないこと』ではなく、本人の力と希望に合わせて支援量を調整することである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0035

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：標準

社会福祉士及び介護福祉士法の誠実義務と自立支援の関係について、正しいものはどれか。

- ア．法律上、自立支援は介護福祉士の業務と関係しない。
- イ．法律は身体機能の自立だけを介護福祉士に求めている。
- ウ．法律は家族の負担軽減を本人の尊厳より優先すると定めている。
- エ．介護福祉士は、担当する者が個人の尊厳を保持し、自立した日常生活を営めるよう本人の立場に立って業務を行うことが求められる。

答え・解説

正答：エ

ア：自立支援は介護福祉士の法的な職業倫理と密接に関係する。

イ：自立した日常生活は身体機能だけに限定される概念ではない。

ウ：家族支援も重要だが、本人の尊厳を下位に置く規定ではない。

エ：法第44条の2は尊厳保持と自立した日常生活を明示し、本人の立場に立った誠実な業務を求める。

総合解説：自立支援は介護福祉職の善意だけに任された考えではなく、職務上の基本姿勢として法にも位置づけられている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0036

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：応用

転倒の危険がある利用者が「自分でトイレまで歩きたい」と希望している。自立支援として最も適切な対応はどれか。

- ア．転倒を完全に防ぐため、本人の希望にかかわらず常時車いすを使用する。
- イ．自己決定を尊重するため、評価や見守りをせず一人で歩いてもらう。
- ウ．歩行能力や環境を評価し、本人とリスクを共有して、補助具や見守りなど安全に希望を実現する方法を検討する。
- エ．事故時の責任を避けるため、家族に決定を委ねる。

答え・解説

正答：ウ

ア：安全だけを理由に能力を使う機会を一律に奪うのは過剰な制限になり得る。

イ：自己決定の尊重はリスク評価や専門的支援を放棄することではない。

ウ：自立支援では、本人の希望と安全の双方を考慮し、より制限の少ない方法で実現可能性を高める。

エ：本人の生活上の選択を家族に一律に委ねるのは適切でない。

総合解説：自立支援では『危ないから禁止』と『本人の自由だから放任』の両極端を避け、本人と共同でリスクを管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0037

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：基礎

実質的な自己決定を支える選択肢の提示として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が理解でき、実際に選べる範囲の選択肢を分かりやすく提示する。
- イ．選べない選択肢も多数含め、できるだけ数を増やす。
- ウ．職員が望む選択肢だけを強調して誘導する。
- エ．本人が一度迷ったら、以後は選択肢を示さない。

答え・解説

正答：ア

ア：自己決定のための選択肢は、本人が理解・比較でき、現実に行う可能であることが重要である。
イ：選択肢が多すぎると比較が難しくなる場合があり、本人の理解に合わせる必要がある。
ウ：誘導的な情報提供は自由な意思形成を妨げる。
エ：迷うことを理由に選択機会を恒久的に奪うのは不適切である。
総合解説：選択肢の数よりも、本人が内容を理解し自分の希望を表せるかを重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0038

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：標準

利用者Nさんは片麻痺があるが「以前のように自分で簡単な料理をしたい」と希望している。自立支援として最も適切なものはどれか。

- ア．危険があるため、料理は職員が全て行う。
- イ．自立とは一人で行うことなので、介助や福祉用具を使わず料理してもらう。
- ウ．調理台の高さや道具、作業手順を工夫し、本人が安全にできる工程を増やす。
- エ．調理能力の低下を理由に、本人の希望を生活目標から外す。

答え・解説

正答：ウ

ア：危険の可能性だけで活動を全面禁止すると、本人の役割や能力発揮の機会を失う。
イ：支援や用具を使うことは自立と矛盾しない。
ウ：自立支援では、環境や道具を調整し、本人の能力と希望を活かして意味のある活動を実現する。
エ：本人にとって意味のある活動は重要な生活目標となり得る。
総合解説：『本人を変える』だけでなく、環境や方法を変えることで本人の主体的な生活を支えることが自立支援につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0039

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：応用

他者に援助を求めることと自立の関係について、最も適切なものはどれか。

ア．援助を求めた時点で自立していないと判断する。

イ．必要なときに援助を選択し活用することも、自分の生活を主体的に営む自立の一部と考えられる。

ウ．自立している人は、福祉サービスを利用してはならない。

エ．介護者に依頼する内容は、本人ではなく介護者が決める。

答え・解説

正答：イ

ア：援助を求めることは、自己決定に基づく主体的な行動になり得る。

イ：自立は支援の不使用ではなく、必要な支援を自ら選り活用しながら生活をコントロールすることを含む。

ウ：サービス利用と自立は両立する。

エ：本人の希望を中心に、何をどのように支援してもらうかを決めることが重要である。

総合解説：介護福祉では、依存の有無ではなく、本人が自分の生活について選り関与できているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0040

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：標準

自立支援の評価として最も適切なものはどれか。

ア．介助量が減ったかどうかだけで評価する。

イ．本人の能力の活用に加え、本人が望む役割や活動への参加、自己決定の程度も確認する。

ウ．職員の業務時間が短縮したかどうかを中心に評価する。

エ．家族が満足していれば、本人の意向は確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：介助量は一指標だが、減少そのものが本人の生活の質向上を保証しない。

イ：自立支援は身体的自立だけでなく、自己決定、活動、参加、役割など生活全体の視点で評価する必要がある。

ウ：業務効率は支援成果の中心指標ではない。

エ：家族の評価だけでなく、本人の希望や満足を確認する。

総合解説：本人主体の自立支援では、『何ができるようになったか』と『どんな生活ができるようになったか』の両方を見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0041

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：基礎

施設の都合で、利用者Oさんの起床時刻を毎日6時に統一している。Oさんは長年7時半頃まで眠る生活を続けており、「もう少し寝たい」と希望している。自立支援の観点から最も適切な対応はどれか。

ア．集団生活では個人の選択は認められないため、6時起床を続ける。

イ．本人の希望を尊重するため、健康状態や服薬などを確認せず希望時刻まで寝てもらう。

ウ．家族が早起きを望めば、本人の希望より家族の意向を優先する。

エ．本人の生活歴と希望を確認し、必要なケアや施設運営との調整を行いながら、起床時刻を個別に設定できるか検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：集団生活であっても本人の生活習慣を可能な限り尊重する。

イ：本人の希望を中心にしつつ、必要な健康管理やケア条件も確認する。

ウ：家族の意見は参考にするが、本人の明確な希望を当然に上回るものではない。

エ：生活の時間を本人が選べることは自己決定の一部であり、必要なケアとの調整をしながら個別化を検討する。

総合解説：自立支援は、施設の一律の日課に本人を合わせるのではなく、本人が自分の生活を選択できる余地を広げることである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0042

自立と自立支援 > 自立の概念・自己決定 | 難易度：標準

認知症の診断を受けた利用者Pさんについて、職員が「認知症だから重要なことは自分では決められない」と一律に判断した。この対応の問題点として最も適切なものはどれか。

ア．認知症の人は法律上すべての自己決定権を失うためである。

イ．診断名だけで意思決定能力を一律に否定せず、決める内容や状況に応じて本人が理解・表明できるよう支援する必要がある。

ウ．重要な決定は必ず介護福祉職が単独で行うべきだからである。

エ．認知症の人には情報を伝えない方が不安を減らせるからである。

答え・解説

正答：イ

ア：認知症の診断だけで自己決定権が失われるわけではない。

イ：認知症があっても意思決定能力を一律に否定せず、本人が理解しやすい説明や環境調整を行い、可能な限り本人の意思を確認する。

ウ：介護福祉職が単独で本人の生活上の重要事項を決定することは本人主体の支援に反する。

エ：必要な情報を本人に合った形で提供することが意思決定支援の基本である。

総合解説：意思決定能力は診断名だけで決めつけず、具体的な決定場面ごとに支援可能性を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0043

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：基礎

ICF（国際生活機能分類）における「生活機能」の3つの構成要素はどれか。

- ア．心身機能・身体構造、活動、参加
- イ．疾病、治療、予後
- ウ．能力、意欲、性格
- エ．住居、所得、家族関係

答え・解説

正答：ア

ア：ICFでは生活機能を、心身機能・身体構造、活動、参加の3つの構成要素で捉える。

イ：疾病等は健康状態に関わるが、生活機能の3構成要素そのものではない。

ウ：能力や個人特性は関連するが、3構成要素の組み合わせではない。

エ：住居や家族関係などは環境因子に含まれ得る。

総合解説：ICFは、病気だけでなく、その人の活動や社会参加を含めて生活全体を捉える枠組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0044

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：標準

ICFにおける「障害」の包括的な捉え方として、正しい組み合わせはどれか。

- ア．疾病、症状、治療
- イ．機能障害・構造障害、活動制限、参加制約
- ウ．能力低下、意欲低下、収入低下
- エ．環境障害、家族障害、制度障害

答え・解説

正答：イ

ア：疾病は健康状態に関係するが、ICFの障害3レベルの組み合わせではない。

イ：ICFでは生活機能のマイナス面を、機能障害・構造障害、活動制限、参加制約として捉える。

ウ：意欲や収入は関連要因となり得るが、障害の3分類ではない。

エ：環境因子は生活機能に影響するが、この名称の3分類は用いない。

総合解説：ICFは障害を身体の問題だけに限定せず、活動や社会参加の困難も含めて捉える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0045

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：標準

ICFにおける背景因子の組み合わせとして、正しいものはどれか。

- ア．活動と参加
- イ．環境因子と個人因子
- ウ．疾病と症状
- エ．機能障害と活動制限

答え・解説

正答：イ

ア：活動と参加は生活機能の構成要素である。

イ：ICFの背景因子は、環境因子と個人因子から構成される。

ウ：疾病や症状は健康状態に関係する。

エ：機能障害と活動制限は障害の側面である。

総合解説：環境因子と個人因子は、生活機能の状態に影響し、同じ健康状態でも生活のしやすさが異なることを説明する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0046

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：応用

ICFの「活動」と「参加」の例の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

- ア．活動：食事を作る、参加：家族の食事作りの役割を担う
- イ．活動：脳梗塞、参加：片麻痺
- ウ．活動：筋力低下、参加：関節拘縮
- エ．活動：住宅の段差、参加：福祉用具

答え・解説

正答：ア

ア：活動は目的をもった行為、参加は生活・社会場面への関与や役割を指す。調理という行為と家庭内役割の組み合わせが適切である。

イ：脳梗塞は健康状態、片麻痺は心身機能・身体構造の問題として捉えられる。

ウ：筋力低下や拘縮は心身機能・身体構造の問題である。

エ：住宅の段差や福祉用具は環境因子に該当し得る。

総合解説：同じ行為でも、その人の生活上の役割や社会との関わりに位置づけることで『参加』の視点が明確になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0047

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：基礎

ICFで「活動」を評価するときに区別することが重要なものはどれか。

- ア．希望と満足
- イ．診断名と治療法
- ウ．収入と支出
- エ．能力（できる活動）と実行状況（している活動）

答え・解説

正答：エ

ア：希望や満足も支援には重要だが、ICFの活動評価で示されるこの対概念ではない。

イ：診断と治療は医学的情報であり、活動の能力・実行状況の区別とは異なる。

ウ：経済状況は環境に影響するが、この区別ではない。

エ：ICFでは活動について、標準的・特定の条件で何ができるかという能力と、実生活で実際に何をしているかという実行状況を区別する。

総合解説：『できるのにしていない』『できないと思われていたが環境を整えるとしている』など、能力と実行状況の差は支援方法を考える手がかりになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0048

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：標準

ICFの環境因子の捉え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．環境因子は常に本人の生活機能を低下させる。
- イ．環境因子は住居の物理的環境だけを指す。
- ウ．環境因子は本人の努力で変えられないため支援対象にならない。
- エ．同じ環境要因でも、生活機能を促進する因子にも妨げる因子にもなり得る。

答え・解説

正答：エ

ア：環境は生活機能を助ける場合も妨げる場合もある。

イ：家族、支援者、制度、サービスなども環境因子として捉えられる。

ウ：環境調整は介護支援の重要な方法である。

エ：環境因子には物理的環境、人的支援、制度などが含まれ、促進因子にも阻害因子にもなり得る。

総合解説：ICFの視点は、困難を本人の機能だけに帰属せず、環境を変えることで生活機能が改善する可能性を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0049

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：基礎

利用者Qさんは屋内歩行が可能だが、自宅玄関に高い段差があり、一人では外出できない。そのため地域の集まりに参加できていない。ICFの視点で最も適切な捉え方はどれか。

ア．外出できない原因は本人の意欲不足だけにある。

イ．玄関の段差という環境因子が活動や参加を制限しており、環境調整によって生活機能が改善する可能性がある。

ウ．屋内歩行ができるため、生活機能上の問題はない。

エ．地域活動への参加はICFの対象外である。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の要因だけでなく環境との相互作用を評価する。

イ：ICFでは環境因子と活動・参加の相互作用を捉える。段差を解消するなどの環境調整で外出と参加が可能になる場合がある。

ウ：屋内の能力があっても、実生活で外出できなければ活動・参加上の課題がある。

エ：地域活動への参加は『参加』の重要な例である。

総合解説：本人の機能だけを訓練するのではなく、住環境や支援方法を変えることも生活機能を高める介入となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0050

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：応用

利用者Rさんは下肢筋力が向上したが、外出の機会がなく地域活動への参加は増えていない。ICFを用いた評価として最も適切なものはどれか。

ア．筋力が向上したので生活機能は十分に改善したと判断する。

イ．参加は本人の性格だけで決まるため、介護支援では扱わない。

ウ．心身機能の改善だけでなく、活動や参加、環境因子も含めて目標と支援を見直す。

エ．筋力が改善すれば活動と参加も自動的に改善すると考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：心身機能の改善は重要だが、活動や参加の実現を別に評価する必要がある。

イ：参加は本人の性格だけに還元できず、環境や支援条件の影響を受ける。

ウ：ICFでは心身機能・活動・参加は相互に関連し、環境因子も影響するため、一つの要素の改善だけで生活全体の改善を判断しない。

エ：各要素は単純な一方向関係ではなく相互作用する。

総合解説：介護目標は『筋力を上げる』で終わらず、その結果として本人が何をしたいか、どんな役割に戻りたいかまでつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0051

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：標準

ICFモデルの特徴について、最も適切なものはどれか。

- ア．疾病から機能障害、活動制限、参加制約へ一方向に進むモデルである。
- イ．障害の原因を本人の身体機能だけに求める医学モデルである。
- ウ．社会環境だけが障害を生み、健康状態は考慮しないモデルである。
- エ．健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、背景因子が相互に影響する統合的なモデルである。

答え・解説

正答：エ

ア：ICFの要素間は双方向に影響し、単純な一方向の因果関係ではない。

イ：身体機能だけに原因を限定しない。

ウ：社会環境以外にも限定せず、健康状態や個人因子も含めて捉える。

エ：ICFは医学モデルと社会モデルの対立を超え、健康状態と生活機能、背景因子の相互作用を捉える統合モデルである。

総合解説：ICFを使うと、本人の状態を『病気だからできない』と単純化せず、複数の要因と改善可能な条件を検討できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0052

自立と自立支援 > ICF・生活機能 | 難易度：標準

多職種チームでICFを活用する意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人・家族を含む関係者が、生活機能を共通の視点で捉え、本人の目標に向けて情報を共有しやすくなる。
- イ．医学診断を介護職員が確定できるようになる。
- ウ．本人の希望を聞かなくても、分類項目だけで支援目標を決められる。
- エ．職種ごとの専門用語を増やし、他職種には理解しにくくする。

答え・解説

正答：ア

ア：ICFは生活機能を捉える共通言語として、本人・家族と専門職、専門職間の共通理解や自己決定支援に役立つとされる。

イ：ICFは診断権限を変更するものではない。

ウ：分類は本人の希望を置き換えるものではなく、本人の生活目標を共有するための枠組みである。

エ：共通言語として、職種間の理解を促進することが目的である。

総合解説：ICFは分類表を埋めることが目的ではなく、本人の生活全体をチームで共有し、支援の優先順位を考えるための道具である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0053

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレングス | 難易度：基礎

エンパワメントの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．支援者が本人に代わって問題をすべて解決する。
- イ．本人の弱点を指摘し、支援者への依存を強める。
- ウ．本人が自らの力を発揮し、自己決定や問題解決に主体的に関われるよう支える。
- エ．本人に支援を受けさせず、一人で解決するよう求める。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の主体性を置き換える代行中心の支援はエンパワメントと異なる。

イ：弱点のみを強調することは無力感を強める可能性がある。

ウ：エンパワメントは、本人自身による力の獲得や発揮を重視し、支援者は伴走者として関わる。

エ：必要な支援を利用することとエンパワメントは両立する。

総合解説：エンパワメントでは『支援者が力を与える』というより、本人が持つ力や可能性を発揮できる条件を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0054

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレングス | 難易度：標準

ストレングスの捉え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．身体機能が高い部分だけを指す。
- イ．本人の希望、経験、得意なことなどの個人的な強みだけでなく、家族関係や地域の支援ネットワークなど環境の強みも含む。
- ウ．専門職が本人に新しく与えた能力だけを指す。
- エ．本人の問題点や欠点を一覧にしたものを指す。

答え・解説

正答：イ

ア：身体機能だけに限定されない。

イ：ストレングスは本人の関心、希望、技能、経験などに加え、家族関係、友人、支援ネットワーク、地域資源など環境面の強みも含む。

ウ：既に本人や環境に存在する力や可能性にも着目する。

エ：問題点ではなく、強みや可能性を捉える視点である。

総合解説：ストレングス視点は、できないことだけでなく、本人と環境にある資源を支援の出発点にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0055

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレンクス | 難易度：応用

ストレンクス視点によるアセスメントとして、最も適切なものはどれか。

ア．介護が必要になった原因だけを詳しく調べる。

イ．困難だけでなく、本人ができること、希望、過去の成功経験、支えてくれる人や地域資源も把握する。

ウ．できない動作を多く見つけることを最優先する。

エ．本人の希望は主観的なので情報から除く。

答え・解説

正答：イ

ア：原因分析だけでは本人が活かせる力や資源を見落とす。

イ：ストレンクス視点では、弱みだけでなく本人の可能性や環境資源を把握し、本人主体の支援に活用する。

ウ：課題把握は必要だが、欠点探しに偏らない。

エ：本人の希望は支援目標を考える重要な情報である。

総合解説：課題とストレンクスを両方捉えることで、本人が主体的に取り組める現実的な支援方法を組み立てやすくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0056

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレンクス | 難易度：標準

利用者Sさんは「若い頃から園芸が好きだった。近所の友人も時々来てくれる」と話している。ストレンクス視点で最も適切な捉え方はどれか。

ア．園芸は現在の身体機能に直接関係しないため、支援情報として不要である。

イ．友人は専門職ではないため、支援資源にはならない。

ウ．ストレンクスは介助なしでできる行為だけを指す。

エ．園芸の経験や興味は本人のストレンクスであり、友人との関係は環境のストレンクスとして支援に活かせる。

答え・解説

正答：エ

ア：本人にとって意味のある経験は、意欲や役割づくりに活用できる。

イ：友人や近隣関係も生活を支える環境資源になり得る。

ウ：支援を受けながら発揮できる力もストレンクスである。

エ：本人の興味・経験と、支える人間関係はいずれもストレンクスとして捉えられる。

総合解説：園芸の再開など本人の強みを起点にすると、活動や社会参加につながる具体的な目標を立てやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0057

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレンクス | 難易度：基礎

エンパワメントを重視した支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．専門職が最も良い計画を作り、本人には結果だけ伝える。
- イ．失敗しそうな選択肢は、本人には知らせない。
- ウ．本人が情報を得て選択し、支援計画の目標や方法を一緒に決められるようにする。
- エ．本人の自己決定を尊重するため、専門職は情報提供をしない。

答え・解説

正答：ウ

ア：専門職だけで決めると本人の主体性が弱くなる。

イ：必要な情報を隠すことは、本人が自分で選ぶ機会を狭める。

ウ：本人が支援過程に参加し、自分の生活への影響力を高められるようにすることがエンパワメントにつながる。

エ：自己決定には適切な情報提供や支援が必要である。

総合解説：エンパワメントは、本人を支援計画の受け手ではなく共同の意思決定者として位置づける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0058

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレンクス | 難易度：標準

ストレンクスについての記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．ストレンクスは成功した経験だけに存在する。
- イ．一見すると弱みに見える経験の中にも、本人の工夫、粘り強さ、支援関係など活用できる強みが含まれることがある。
- ウ．障害が重い人にはストレンクスは見いだせない。
- エ．環境にある資源はストレンクスには含まれない。

答え・解説

正答：イ

ア：困難な経験の中にも対処能力や支援関係など強みがある場合がある。

イ：ストレンクスは本人の能力や成功だけではなく、経験から得た技能や関係、環境の資源など幅広く捉える。

ウ：障害の程度にかかわらず強みや可能性を探る視点が重要である。

エ：家族・友人・地域資源など環境の強みも含む。

総合解説：ストレンクス視点は、本人を問題の集合として見るのではなく、その人と環境がすでに持つ力を発見して支援に活かす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0059

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレングス | 難易度：応用

利用者Tさんは退院後の外出に自信を失い、「もう一人では何もできない」と話している。以前は毎週、自分で路線バスを使って買い物に行っていた。エンパワメントを意識した支援として最も適切なものはどれか。

ア．危険を避けるため、今後の外出はすべて職員が代行する。

イ．以前の外出経験を本人と振り返り、短い距離の練習や同行など段階的な方法を本人と選び、成功体験を積めるようにする。

ウ．自信をつけるため、初回から一人で遠距離の外出を求める。

エ．本人が弱気なので、できない点を詳しく説明して現実を理解してもらう。

答え・解説

正答：イ

ア：全面代行は本人が力を再発見する機会を減らす。

イ：過去の成功経験というストレングスを活かし、本人が選んだ段階的な挑戦を支えることで自己効力感や主体性を高める。

ウ：過大な課題は失敗体験を強める可能性があり、本人と段階を選ぶことが重要である。

エ：課題の指摘だけでは無力感を強める可能性がある。

総合解説：エンパワメント支援では、本人が『できるかもしれない』『自分で選べる』と感じられる経験を積み重ねる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0060

自立と自立支援 > エンパワメント・ストレングス | 難易度：標準

介護福祉職が効率的な支援計画を作成したが、利用者Uさんは内容をよく知らず「言われた通りにしています」と話している。エンパワメントの観点から最も必要な見直しはどれか。

ア．計画の専門性を高めるため、本人への説明をさらに減らす。

イ．本人が従っているので、支援は成功していると評価する。

ウ．本人の参加には時間がかかるため、家族だけに計画を説明する。

エ．Uさんが希望や強みを表し、目標と支援方法の選択に参加できるよう計画作成過程を見直す。

答え・解説

正答：エ

ア：専門性は本人の参加を排除する理由にはならない。

イ：受動的に従っていることと、本人主体の支援が実現していることは同じではない。

ウ：家族への説明も必要な場合があるが、本人を計画から外すべきではない。

エ：エンパワメントでは、本人が支援の受け手にとどまらず、支援過程に参加し自分の生活に影響を及ぼせることが重要である。

総合解説：支援計画の質は専門職の完成度だけでなく、本人の価値観・選択・強みが反映されているかで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0061

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：基礎

日本介護福祉士会の倫理綱領・倫理基準に沿った介護福祉士の姿勢として、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者の価値観より、専門職が望ましいと考える生活を優先する。
- イ．業務効率を高めるため、利用者ごとの希望は原則として統一する。
- ウ．家族から依頼があれば、本人の意思を確認せず支援内容を変更する。
- エ．利用者を差別せず、人としての尊厳を大切にし、利用者本位で介護福祉サービスを提供する。

答え・解説

正答：エ

ア：専門職の価値観を押しつけず、本人の価値観と自己決定を尊重する必要がある。

イ：効率のみを優先して個性を失うことは利用者本位に反する。

ウ：家族の意見は重要だが、本人の意思を省略してよいわけではない。

エ：倫理基準は、利用者本位、自立支援、尊厳の尊重を介護福祉士の基本姿勢として示している。

総合解説：介護福祉士の職業倫理は、専門知識や技術だけでなく、本人を尊厳ある主体として扱う態度を求める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0062

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：標準

介護福祉士が利用者の自己決定を尊重する行動として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が誤った選択をしないよう、選択肢を示さず職員が決める。
- イ．本人の希望と職員の価値観が違う場合は、職員の価値観を優先する。
- ウ．本人が迷ったときは、考える時間を与えず家族に決定を求める。
- エ．本人の状態に合わせて情報を提供し、本人が選択できるよう支援する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人が決めるための支援を行うことが先であり、選択肢を奪うことは適切でない。

イ：支援者自身の価値観に偏らず、本人の自己決定を尊重する。

ウ：迷いがある場合も、本人に合った説明や時間の確保など支援を工夫する。

エ：倫理基準は、本人が自己決定できるよう状態に合わせた情報提供を行い、本人の自己決定を尊重することを求めている。

総合解説：自己決定尊重は、本人を放置することではなく、決めるための情報と環境を専門職が整えることである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0063

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：基礎

介護福祉士の守秘に関する職業倫理として、最も適切なものはどれか。

- ア．退職後は職業上の守秘義務はなくなる。
- イ．同じ地域に住む知人には、名前を伏せれば詳しい状況を話してよい。
- ウ．業務上知り得た利用者の秘密は、正当な理由なく他者に漏らさない。
- エ．家族から尋ねられた情報は、本人の意向を確認せず全て伝えてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：法は介護福祉士でなくなった後も秘密保持義務が続くと定める。

イ：名前を伏せても他の情報から本人を特定できる場合があり、安易な共有は不適切である。

ウ：社会福祉士及び介護福祉士法は、業務上知り得た人の秘密を正当な理由なく漏らさない義務を定め、資格を離れた後も同様としている。

エ：家族であっても情報共有には本人の意向や利用目的、必要性を考慮する必要がある。

総合解説：守秘は信頼関係を支える専門職倫理であり、必要な連携と無制限な情報開示を区別する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0064

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：標準

根拠に基づく介護と専門職倫理の関係について、最も適切なものはどれか。

- ア．経験年数が長ければ、根拠を確認せず経験だけで支援方法を決めてよい。
- イ．本人が希望すれば、安全性や根拠を検討する必要はない。
- ウ．本人の心身の状況を的確に把握し、専門的根拠に基づいて支援することは専門職としての責任である。
- エ．専門職倫理は態度だけの問題であり、知識・技術の質とは関係しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：経験は重要だが、根拠や個別の状態を確認する必要がある。

イ：本人の希望を尊重しつつ、専門職として必要な情報提供や安全性の検討も行う。

ウ：日本介護福祉士会の倫理基準は、心身の状況を的確に把握し、根拠に基づく介護福祉サービスによって自立を支援することを示している。

エ：専門職倫理には適切な知識・技術を用いて質の高い支援を行う責任も含まれる。

総合解説：倫理的な介護は『優しく接する』だけではなく、本人の権利を守るために専門的根拠を用いることを含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0065

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：標準

利用者Vさんは自分で食事を選びたいが、職員は「高齢者にはこの献立が一番よい」と本人に選択肢を示していない。この関わりで最も問題となる倫理的課題はどれか。

- ア．介護福祉職が食事に関わることで自体が職務範囲外である。
- イ．高齢者には食事の自己決定権が認められていない。
- ウ．選択肢を示すことは専門職の責任を放棄する行為である。
- エ．専門職の価値観を優先し、本人の自己決定を制限している。

答え・解説

正答：エ

ア：生活支援として食事に関わることは介護の重要な領域である。

イ：年齢を理由に自己決定権が失われることはない。

ウ：情報提供と本人の選択を支えることは専門職としての責任に合致する。

エ：専門職は知識を用いて助言するが、自らの価値観を本人に押しつけず、必要な情報を提供して本人の選択を支える。

総合解説：本人にとって望ましいことを専門職が一方的に決めるパターンリズムに偏らず、本人の価値観と専門的助言を両立させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0066

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：応用

介護福祉士が利用者ニーズを代弁する際の姿勢として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が望むことを確認し、本人の意思をできるだけ正確に関係者へ伝える。
- イ．本人の意思より、介護福祉士が必要だと思う内容を代弁する。
- ウ．本人が話しにくい場合は、本人に確認せず家族の意見だけを伝える。
- エ．事業所に不利益となる要望は、本人に説明せず伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：倫理基準における代弁は、利用者が望むサービスを受けられるよう権利を擁護し、本人のニーズを伝えることである。

イ：代弁は専門職自身の希望を本人の希望として置き換えることではない。

ウ：本人に合った方法で意思確認を行い、家族の情報と区別する必要がある。

エ：事業所都合で本人の権利やニーズを隠すことは適切でない。

総合解説：アドボカシーは、本人の声が届きにくい場面で、本人の意思と権利を中心に社会や組織へ働きかける専門職倫理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0067

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：基礎

同僚が利用者について職員休憩室で「あの人は何を言っても分からない」と笑いながら話している。介護福祉士として最も適切な対応はどれか。

- ア．利用者本人が聞いていなければ問題ないので、そのままにする。
- イ．職員同士の会話は業務外なので、専門職倫理とは関係ない。
- ウ．同僚との関係を優先し、利用者に対する発言は評価しない。
- エ．利用者の尊厳を損なう表現であることを伝え、本人を尊重した関わりをチームで確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人が聞いていなくても、尊厳を軽視する職場文化につながるため看過すべきではない。

イ：職員間の言動も専門職としての信用や倫理に関係する。

ウ：同僚関係よりも、利用者の権利と専門職としての適切な実践を優先する。

エ：利用者の尊厳を守る倫理は、本人の前だけに限らず、専門職としての態度や職場文化にも求められる。

総合解説：倫理的な職場づくりには、不適切な言動を個人の問題で終わらせず、チームで尊厳尊重の基準を共有することが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0068

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：標準

介護福祉士が専門職として学び続けることについて、最も適切なものはどれか。

- ア．資格取得後は、法的に知識や技能を更新する必要はない。
- イ．社会や介護を取り巻く環境の変化に対応するため、知識と技能の向上に努める必要がある。
- ウ．経験が10年以上あれば、新しい制度や技術を学ぶ必要はない。
- エ．研修参加は管理職だけの責任であり、個々の介護福祉士には関係ない。

答え・解説

正答：イ

ア：資格は学習終了を意味せず、継続的な資質向上が求められる。

イ：社会福祉士及び介護福祉士法第47条の2は、環境変化に適応するため知識と技能の向上に努める資質向上の責務を定める。

ウ：経験とともに最新の知識・制度・技術を学ぶことが必要である。

エ：組織的研修に加え、個々の専門職にも資質向上の責務がある。

総合解説：継続学習は、変化する利用者ニーズや制度、介護技術に適切に対応し、支援の質を保つための専門職責任である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0069

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：応用

多職種連携における専門職倫理として、最も適切なものはどれか。

- ア．連携を円滑にするため、利用者の情報は必要性にかかわらず全て共有する。
- イ．介護福祉士が最も利用者を知っているため、他職種の意見は参考にしない。
- ウ．守秘義務があるため、支援に必要な情報も一切共有しない。
- エ．本人の支援に必要な情報を、目的を明確にして適切な範囲で共有し、各職種の専門性を尊重する。

答え・解説

正答：エ

ア：連携は無制限な情報共有を正当化しない。

イ：各専門職が異なる視点と役割を持つため、相互尊重が必要である。

ウ：守秘義務は必要な支援連携まで否定するものではなく、目的と範囲を適切にすることが重要である。

エ：多職種連携では、本人の利益のために必要な情報を適切に共有しつつ、守秘・個人情報保護と各職種の役割を尊重する。

総合解説：専門職倫理では、情報共有か守秘かを二者択一で考えず、本人の支援に必要な範囲と目的に沿って判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0070

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：標準

利用者Wさんは転倒の危険があるが「自分で散歩に行きたい」と希望している。職員間では、安全を理由に散歩禁止の意見が出ている。専門職倫理の観点から最も適切な検討はどれか。

- ア．本人の希望、予測されるリスク、能力、環境を確認し、見守りや経路調整など本人の選択をできるだけ実現する方法を検討する。
- イ．事故を避けることが専門職の最優先なので、本人の意思にかかわらず禁止する。
- ウ．自己決定が最優先なので、リスクを説明せず一人で散歩してもらう。
- エ．家族に判断を任せ、本人とは話合わない。

答え・解説

正答：ア

ア：専門職倫理では、本人の自律と安全をともに検討し、必要な情報提供や環境調整によって、過度に制限しない支援を探る。

イ：安全を絶対化して本人の生活を一律に制限することは、自律やQOLを損なう可能性がある。

ウ：自己決定の尊重は、専門職としてリスク評価や説明を放棄することではない。

エ：本人の意思を意思決定過程から外すことは不適切である。

総合解説：倫理的葛藤では、一つの価値だけを機械的に優先せず、本人と対話し、より制限の少ない実現方法を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0071

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：基礎

利用者Xさんの家族が「本人には病名を伝えず、今後のサービス内容も家族だけで決めてほしい」と申し出た。本人は理解力があり、自分の生活について知りたいと話している。介護福祉士の倫理的対応として最も適切なものはどれか。

ア．本人の知ることや自己決定を尊重し、情報提供の方法や家族の懸念を関係職種と共有して、本人中心に支援方針を検討する。

イ．家族の希望を優先し、本人には何も説明しない。

ウ．介護福祉士が単独で病名を告知し、医療職とは連携しない。

エ．家族と対立を避けるため、本人の希望は記録しない。

答え・解説

正答：ア

ア：本人が理解し意思決定できる状況では、本人の知る権利や自己決定を尊重しつつ、情報提供に関する職種の役割を踏まえて連携する。

イ：家族の懸念は重要だが、本人の意思を当然に排除する根拠にはならない。

ウ：病名説明は医療職の役割も関係するため、介護福祉士が独断で行うのではなく連携する。

エ：本人の意思を記録・共有し、支援に反映することが必要である。

総合解説：本人中心の倫理実践では、家族支援と本人の権利を対立させず、適切な職種連携の中で本人の意思を守る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0072

介護福祉士の役割と倫理 > 専門職倫理・職業倫理 | 難易度：標準

介護福祉士がサービス提供中に、これまでの方法より利用者の負担が少ない新しい介助方法を学んだ。専門職倫理に沿った行動として最も適切なものはどれか。

ア．根拠や安全性、本人の状態を確認し、チームで共有した上で本人に合うか検討する。

イ．新しい方法は必ず優れているため、本人への説明なく直ちに変更する。

ウ．これまで事故がなかったので、新しい知識は取り入れない。

エ．自分だけが知っていればよいので、他職員には共有しない。

答え・解説

正答：ア

ア：専門職は知識・技能を更新しつつ、新しい方法を個別の利用者に適用する際は根拠、安全性、本人の状態や希望を検討する。

イ：新しいこと自体が適切さを保証するわけではなく、本人への適合性を確認する必要がある。

ウ：従来法の継続だけを理由に改善可能性を検討しないのは資質向上の姿勢に反する。

エ：安全で一貫したケアのため、必要な知識はチームで共有することが重要である。

総合解説：継続学習は知識を得るだけでなく、根拠を吟味し、本人に合った形で実践へ反映するところまで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0073

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：基礎

社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の定義として、最も適切なものはどれか。

- ア．医師の診断に基づき、疾病の治療方針を決定することを業とする者である。
- イ．福祉に関する相談援助だけを専門的に行い、身体介護は行わない者である。
- ウ．資格登録を受けずに、介護福祉士の名称を自由に使用できる者である。
- エ．登録を受けて介護福祉士の名称を用い、専門的知識・技術をもって心身の状況に応じた介護（喀痰吸引等を含む）を行い、本人及び介護者に介護に関する指導を行うことを業とする者である。

答え・解説

正答：エ

ア：診断や治療方針の決定は介護福祉士の定義には含まれない。

イ：相談援助のみを業とする定義は社会福祉士の定義に近く、介護福祉士は介護等を行う。

ウ：介護福祉士は名称を用いるために法定の登録が必要な名称独占資格である。

エ：法第2条第2項は、登録を受けて介護福祉士の名称を用い、専門的知識・技術をもって、心身の状況に応じた介護（喀痰吸引等を含む）と、本人・介護者への介護に関する指導を行う者と定義している。

総合解説：介護福祉士は、法定の登録を受ける名称独占資格であり、専門的知識・技術に基づく介護と本人・介護者への介護に関する指導を担う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0074

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：標準

介護福祉士の連携に関する法的責務として、最も適切なものはどれか。

- ア．介護福祉士は単独で支援を完結し、他職種との連携を避ける。
- イ．医療情報は一切共有できないため、医療職との連携は行わない。
- ウ．家族との連携だけを行えば、他のサービス関係者との連携は不要である。
- エ．本人の心身の状況などに応じて福祉・保健医療等のサービスが総合的かつ適切に提供されるよう、関係者との連携を保つ。

答え・解説

正答：エ

ア：複雑な介護ニーズには多職種・多機関との連携が必要である。

イ：個人情報保護に配慮しつつ、必要な範囲で医療職等と情報共有し連携する。

ウ：家族だけでなく、福祉・保健医療等の関係者との連携を含む。

エ：法第47条第2項は、介護福祉士が本人の状況に応じて福祉サービス等が総合的・適切に提供されるよう関係者との連携を保つことを求める。

総合解説：連携は介護福祉士の付加的な仕事ではなく、本人に総合的な支援を届けるための法的責務の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0075

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：標準

介護福祉士の資質向上の責務について、正しいものはどれか。

- ア．資格取得時の知識だけで業務を続けることが法律上推奨されている。
- イ．社会福祉や介護を取り巻く環境の変化に適応するため、介護等に関する知識・技能の向上に努める。
- ウ．資質向上は事業所の管理者だけに課された責務である。
- エ．制度改正は事務職が対応するため、介護福祉士が学ば必要はない。

答え・解説

正答：イ

ア：資格取得時点の知識を固定するのではなく継続的更新が必要である。

イ：法第47条の2は、社会福祉・介護を取り巻く環境変化に対応するため知識・技能の向上に努めることを求める。

ウ：個々の介護福祉士にも資質向上の責務がある。

エ：制度・社会状況の変化は介護実践にも影響するため理解が必要である。

総合解説：介護福祉士には、専門職として学び続ける責任がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0076

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：応用

介護福祉士が利用者の介護者に対して担う役割として、法に明記されているものはどれか。

- ア．医療診断を行う。
- イ．介護保険の要介護認定を決定する。
- ウ．処方薬の内容を変更する。
- エ．介護に関する指導を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：診断は医師等の医療職の権限に関わる。

イ：要介護認定は法定の認定手続により行われ、介護福祉士が単独で決定するものではない。

ウ：処方変更は介護福祉士の業務ではない。

エ：社会福祉士及び介護福祉士法の定義には、本人だけでなく、その介護者に対して介護に関する指導を行うことが含まれる。

総合解説：介護福祉士の専門性は、直接介護に加えて、家族等の介護者が適切に介護できるよう助言・指導することにも発揮される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0077

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：基礎

利用者Yさんの食事量が数日間減少し、むせが増えている。介護福祉士の役割として最も適切なものはどれか。

ア．介護福祉士だけで嚥下障害と診断し、食形態を恒久的に決定する。

イ．医療職の領域なので観察や報告は行わない。

ウ．食事場面の状態を観察・記録し、看護職など関係職種へ共有して必要な対応を連携して検討する。

エ．本人の状態変化は家族にだけ伝え、チームには共有しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：診断は介護福祉士が単独で行うものではなく、必要な専門職と連携する。

イ：日常生活での観察と報告は介護福祉士の重要な役割である。

ウ：介護福祉士は生活場面に密着した観察情報を把握し、状態変化を適切に記録・共有して多職種連携につなげる役割を持つ。

エ：本人の支援に必要な情報は、適切な範囲でチームと共有する。

総合解説：介護福祉士は生活の中で得られる変化を捉える立場にあり、その情報を多職種の判断につなげることで専門性を発揮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0078

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：標準

「求められる介護福祉士像」に示される役割として、最も適切なものはどれか。

ア．身体介護だけに専門性を限定する。

イ．制度や地域資源は他職種の担当なので理解しない。

ウ．身体的支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開する。

エ．チームケアでは指示を受けるだけで、主体的な役割を持たない。

答え・解説

正答：ウ

ア：介護ニーズは身体面だけでなく心理・社会面を含む。

イ：本人の地域生活を支えるため制度や社会資源の理解も求められる。

ウ：日本介護福祉士会が示す『求められる介護福祉士像』では、心理的・社会的支援、多職種協働、地域生活支援、制度理解など幅広い役割が示されている。

エ：介護職の中核的な役割やチームでの実践が期待されている。

総合解説：現代の介護福祉士には、身体介護技術だけでなく、本人の生活全体を支える総合的な専門性が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0079

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：基礎

家族介護者が「移乗介助が怖くて腰も痛い」と相談した。介護福祉士の対応として最も適切なものはどれか。

ア．家族の介護技術の問題なので、本人への支援だけを行う。

イ．家族に介助を続けるよう求め、負担については扱わない。

ウ．本人と家族の状況を確認し、安全な介助方法や福祉用具の活用を助言し、必要に応じて他職種やサービスにつなぐ。

エ．介護福祉士は介護者への指導を行わないため、相談を断る。

答え・解説

正答：ウ

ア：家族介護者への支援は介護福祉士の役割に含まれる。

イ：家族の身体的・心理的負担を無視すると在宅生活の継続にも影響する。

ウ：介護福祉士の法定業務には介護者への介護に関する指導が含まれ、家族負担の軽減に資する助言や連携も専門職像として示される。

エ：法に介護者への指導が明記されている。

総合解説：本人の生活を支えるには、家族を単なる介護力として扱わず、家族自身の安全と生活も考慮した支援が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0080

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：応用

介護チームの中で中核的な役割を担う介護福祉士の行動として、最も適切なものはどれか。

ア．自分の介護方法を他の職員に説明せず、各自に任せる。

イ．利用者の目標を共有し、ケアの根拠や観察事項をチーム内で伝え、支援の質をそろえる働きかけを行う。

ウ．新人職員の育成は管理者だけの役割として関与しない。

エ．チーム内で意見が違う場合は、最も経験年数の長い人の方法に従う。

答え・解説

正答：イ

ア：ケアの一貫性や安全性のため、根拠と観察情報を共有する必要がある。

イ：専門職として中核的役割を担うには、本人の目標を軸に情報・根拠を共有し、後進育成やチームケアの質向上に関わる必要がある。

ウ：倫理基準には後継者育成やより良い職場環境づくりへの関与も示される。

エ：経験年数だけで決めるのではなく、本人の状態と根拠をもとに検討する。

総合解説：介護福祉士の中核的役割は権限を強くすることではなく、利用者中心の質の高い介護をチームで実現する働きである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0081

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：標準

介護福祉士の役割と本人のエンパワメントの関係について、最も適切なものはどれか。

- ア．本人や家族の強みを活かし、本人が支援の目標や方法に主体的に関われるよう支える。
- イ．専門職がすべて決定する方が本人の負担が減るため、エンパワメントになる。
- ウ．エンパワメントは相談支援専門員だけの役割で、介護福祉士には関係しない。
- エ．本人の能力が低下している場合、エンパワメントの視点は用いない。

答え・解説

正答：ア

ア：『求められる介護福祉士像』では、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援が求められている。

イ：本人の意思決定機会を奪うことは主体性を高める支援ではない。

ウ：介護福祉士にも本人・家族のエンパワメントを意識した支援が求められる。

エ：支援の必要性が高くても、本人の強みや意思を活かす視点は重要である。

総合解説：専門性は本人に代わって決める力ではなく、本人が自らの力を発揮できるよう支援する力として用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0082

介護福祉士の役割と倫理 > 介護福祉士の役割・責務 | 難易度：標準

介護福祉士が自分の職務範囲を適切に理解して行動する例として、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者の状態変化を観察し、介護の範囲を超える判断が必要なときは適切な専門職へ報告・相談する。
- イ．利用者から頼まれれば、医学的診断を自分で行う。
- ウ．専門職なので、他職種への相談なしに全ての支援内容を決定する。
- エ．介護以外の課題が見つかったも、自分の担当外として関係者に伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：介護福祉士は専門性を発揮するとともに、職務範囲を理解し、本人に必要なサービスが総合的に提供されるよう関係者と連携する。

イ：診断は介護福祉士の業務ではない。

ウ：複雑なニーズには多職種連携が必要であり、単独で全てを決めるものではない。

エ：担当外の課題でも本人の生活に重要なら、適切な専門職へつなぐ役割がある。

総合解説：専門職としての責任には、『できることを適切に行う』ことと『自分だけでは扱えない課題を適切につなぐ』ことの両方が含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0083

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：基礎

医療・介護関係事業者が取り扱う個人情報の例として、最も適切なものはどれか。

- ア．個人と無関係な一般的な介護技術の説明
- イ．誰のものか識別できず、他の情報とも容易に照合できない一般統計だけの数値
- ウ．利用者の介護記録に記載された氏名、生活状況、病歴などの情報
- エ．施設の廊下の長さだけを示した図面

答え・解説

正答：ウ

ア：一般的な技術説明は特定の個人に関する情報ではない。

イ：特定個人と結びつかない一般統計は通常、個人情報には当たらない。

ウ：介護関係記録に含まれる利用者情報は、特定の個人を識別できる場合に個人情報に該当する。

エ：施設設備だけの情報は個人に関する情報ではない。

総合解説：介護現場では、氏名だけでなく、記録、家族情報、保険番号など多様な情報が個人情報となり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0084

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：標準

医療・介護関係事業者が取り扱う「要配慮個人情報」に該当するものとして、最も適切なものはどれか。

- ア．施設の食堂の座席配置
- イ．事業所の一般公開されている電話番号
- ウ．個人と結びつかない気象情報
- エ．利用者の病歴や障害の事実が記載された情報

答え・解説

正答：エ

ア：座席配置自体は特定個人に関する情報でなければ要配慮個人情報ではない。

イ：事業所の一般情報は利用者個人の要配慮個人情報ではない。

ウ：気象情報は個人に関する情報ではない。

エ：病歴や障害の事実などは、不当な差別・偏見等が生じないよう特に配慮を要する要配慮個人情報に含まれる。

総合解説：介護記録には要配慮個人情報が多く含まれるため、取得・利用・共有の場面で特に慎重な取扱いが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0085

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：応用

個人データの第三者提供について、個人情報保護法上の原則として最も適切なものはどれか。

- ア．介護事業者が保有する情報は、本人の同意なく誰にでも提供できる。
- イ．法令上の例外などを除き、あらかじめ本人の同意を得ずに第三者へ提供してはならない。
- ウ．家族から求められた情報は、内容にかかわらず必ず全て提供する。
- エ．氏名を削除すれば、他の情報から本人が特定できても自由に提供できる。

答え・解説

正答：イ

ア：介護事業者にも個人情報保護法等に基づく適切な取扱いが求められる。

イ：個人情報保護法第27条は、法令に基づく場合などの例外を除き、本人の同意なく個人データを第三者提供することを原則として制限している。

ウ：家族への提供も、本人との関係、利用目的、本人の意向などを考慮して適切に扱う必要がある。

エ：氏名を消しても他情報と容易に照合して本人を識別できれば個人情報に該当し得る。

総合解説：『第三者提供には必ず同意が必要』と単純化せず、原則と法定例外を区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0086

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：標準

介護福祉士が退職した後の、在職中に知り得た利用者の秘密の取扱いについて、最も適切なものはどれか。

- ア．退職した時点で秘密保持義務は終了する。
- イ．退職後は氏名を出さなければ、具体的な事例を自由に話せる。
- ウ．介護福祉士でなくなった後も、正当な理由なく秘密を漏らしてはならない。
- エ．家族や友人との私的な会話であれば、守秘義務は適用されない。

答え・解説

正答：ウ

ア：法は退職・資格離脱後も同様としている。

イ：氏名がなくても特定され得る情報や秘密を正当な理由なく漏らすことは適切でない。

ウ：社会福祉士及び介護福祉士法第46条は、秘密保持義務が資格を離れた後も続くことを明記している。

エ：私的な会話であることは守秘義務を免れる理由にならない。

総合解説：守秘義務は、利用者が安心して専門職に生活上の情報を話せる信頼の基盤であり、職を離れても継続する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0087

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：基礎

介護職員がエレベーター内で、他の利用者や来訪者がいるにもかかわらず「Aさんは昨夜失禁が3回あった」と実名を出して話した。最も適切な評価はどれか。

ア．同じ施設内なので、どこで話しても問題ない。

イ．支援に必要な場所でないところで個人の介護情報を周囲に聞こえる形で話しており、プライバシーと個人情報保護の観点から不適切である。

ウ．事実であれば、本人の同意がなくても公の場で話してよい。

エ．介護記録に書かれている内容は秘密には当たらない。

答え・解説

正答：イ

ア：施設内であっても、無関係な人に聞かれる場所での会話は避ける。

イ：利用者の排泄状況は私生活に関わる重要な情報であり、必要な関係者間でも場所と範囲に配慮して共有する必要がある。

ウ：情報が真実かどうかと、適切に扱う義務は別問題である。

エ：記録に記載されている情報も、業務上知り得た秘密や個人情報となり得る。

総合解説：プライバシー保護はデータベース管理だけでなく、廊下・エレベーター・食堂での会話など日常の情報取扱いにも及ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0088

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：標準

多職種チームで利用者の情報を共有するときの対応として、最も適切なものはどれか。

ア．連携のためであれば、本人の私生活に関する情報を全職員へ無制限に共有する。

イ．個人情報なので、本人支援に不可欠な情報でも一切共有しない。

ウ．支援目的に必要な情報を、組織のルールや法令に従い、適切な範囲の関係者で共有する。

エ．口頭であれば記録が残らないので、内容や場所を問わず自由に共有する。

答え・解説

正答：ウ

ア：連携目的でも必要性のない情報まで広げるべきではない。

イ：支援に必要な適切な情報共有まで一律に禁止すると、総合的な支援を妨げる。

ウ：必要な連携と個人情報保護は両立させる。目的、必要性、共有範囲、方法を適切に管理することが重要である。

エ：口頭情報も個人情報・秘密の取扱いとして慎重さが必要である。

総合解説：情報共有は『多いほど良い』『全くしない方が良い』ではなく、本人の支援に必要な範囲で適切に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0089

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：応用

研修資料を作るため、職員が利用者の氏名だけを削除し、年齢、珍しい病名、居住地域、家族構成、具体的な経歴をそのまま残した。地域内では本人を容易に推測できる。この情報の取扱いとして最も適切なものはどれか。

ア．氏名を削除した時点で必ず匿名情報になる。

イ．氏名を削除しても他の情報と容易に照合・組み合わせで本人を識別できるなら、個人情報として適切に取り扱う必要がある。

ウ．職員研修で使う情報は個人情報保護の対象外である。

エ．顔写真がなければ、本人を特定できても個人情報には当たらない。

答え・解説

正答：イ

ア：匿名化は氏名削除だけで自動的に成立するものではない。

イ：個人情報保護委員会は、氏名等を削除しても他の情報と容易に照合して特定個人を識別できる場合、全体として個人情報に該当すると示している。

ウ：研修目的でも個人情報を扱う以上、適切な管理が必要である。

エ：顔写真の有無だけで個人情報該当性は決まらない。

総合解説：事例共有では『名前を消したから大丈夫』と考えず、再識別可能性を評価し、必要に応じて情報をさらに加工したり同意を得たりする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0090

介護福祉士の役割と倫理 > プライバシー・個人情報保護 | 難易度：標準

利用者Zさんの家族が電話で「本人の検査結果と介護記録を全部教えてほしい」と求めてきた。本人の意向や相手の本人確認ができていない。介護職員の初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．その場で詳細を答えず、相手の確認、本人の意向、事業所の情報提供ルールを確認してから対応する。

イ．家族を名乗っているため、求められた情報を全て伝える。

ウ．電話なら記録が残らないので、口頭で詳しく説明する。

エ．家族には一切情報提供できないため、事情にかかわらず永久に拒否する。

答え・解説

正答：ア

ア：家族への情報提供でも、本人との関係や意向、利用目的、相手の確認などを踏まえ、事業所のルールに従って慎重に対応する。

イ：家族を名乗るだけでは適切な提供先が確認できず、本人の意向も考慮する必要がある。

ウ：媒体が口頭であることは適切な情報管理を不要にしない。

エ：家族への情報提供が常に禁止されるわけではなく、状況に応じて適切に判断する。

総合解説：介護現場では『家族だから全部伝える』『個人情報だから何も伝えない』という極端な判断を避け、本人中心に法令とルールに基づいて対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0091

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：基礎

利用者主体の介護として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人の希望や生活歴、できることを踏まえて支援内容を考える。
- イ．介護職員が効率よく業務を行える方法を最優先する。
- ウ．家族の希望があれば本人の意向確認は省略する。
- エ．安全確保のため本人には選択肢を示さない。

答え・解説

正答：ア

ア：利用者主体とは、本人の価値観・希望・生活歴・能力を踏まえ、本人を支援の中心に置く考え方である。

イ：業務効率が必要だが、利用者の生活目標や意思より優先されるものではない。

ウ：家族の意向は重要な情報だが、本人の意思を確認せず置き換えることは適切でない。

エ：安全への配慮と自己決定は両立を図るべきであり、選択機会を一律に奪わない。

総合解説：介護の基本では、利用者本位と自立支援が中核となる。支援者の都合ではなく、本人がどのように暮らしたいかを起点に支援を組み立てる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0092

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：基礎

一人暮らしのBさんは、外出時に杖を使い、週2回の訪問介護を利用しながら、自分で買い物先や献立を決めて生活している。自立支援の観点から、この生活の捉え方として最も適切なものはどれか。

- ア．訪問介護を利用しているため、自立した生活とはいえない。
- イ．必要な支援を利用しながら本人が生活を選択しており、自立した生活を支える形の一つと考えられる。
- ウ．杖を使っているため、買い物先は介護職員が決めるべきである。
- エ．一人暮らしを続けるには、すべての生活行為を他者の援助なしで行う必要がある。

答え・解説

正答：イ

ア：サービス利用の有無だけで自立かどうかを判断しない。必要な支援を活用して主体的に暮らすことも自立に含まれる。

イ：本人が必要な支援・福祉用具を活用しつつ、自分の生活を選択している点が自立支援の考え方に合う。

ウ：杖の使用は本人の自己決定を奪う理由にはならず、選択できるよう必要な支援を行う。

エ：自立は「何でも一人で行うこと」に限定されず、必要な支援を受けながら本人らしく暮らすことを含む。

総合解説：介護における自立は、援助を受けない状態だけを意味しない。本人の意思を基礎に、福祉用具や介護サービスなどを活用して生活を組み立てられることも重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0093

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：基礎

右手に軽い麻痺があるAさんは、時間をかければ左手でシャツのボタンを留められる。介護職員の支援として最も適切なものはどれか。

- ア．時間短縮のため、毎回すべてのボタンを介護職員が留める。
- イ．失敗しないよう、ボタン付きの服は禁止する。
- ウ．Aさんが行える部分は見守り、難しい部分だけ必要に応じて介助する。
- エ．練習になるので、どれだけ時間がかかっても一切手伝わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：全介助を続けると、本人が使える能力や達成感を生かしくくなる。

イ：本人の好みや選択を一律に制限することは利用者主体の支援ではない。

ウ：本人ができる部分を生かし、必要な部分だけ支援することは自立支援の基本である。

エ：自立支援は放置ではなく、疲労や安全も見ながら適切に介助することである。

総合解説：自立支援は「全部してあげる」ことでも「全部本人に任せる」ことでもない。能力・疲労・安全を評価し、必要最小限の支援を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0094

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：標準

Bさんはデイサービスの利用曜日を決める必要があるが、説明が長いと混乱しやすい。自己決定を支える対応として最も適切なものはどれか。

- ア．家族にだけ説明して、家族に決めてもらう。
- イ．理解できないと判断し、事業所側で曜日を決める。
- ウ．候補を一度にすべて読み上げ、すぐに回答を求める。
- エ．候補を整理して分かりやすく示し、Bさんが考える時間を確保する。

答え・解説

正答：エ

ア：家族への説明は必要な場合があるが、本人への説明と意思確認を省略する根拠にはならない。

イ：理解しやすい方法を工夫する前に本人の選択機会を奪うのは適切でない。

ウ：情報量が多いと混乱しやすい人には、選択肢の整理や提示方法の工夫が必要である。

エ：本人の状態に合わせて情報提供し、考える時間を確保することが自己決定支援につながる。

総合解説：利用者主体の支援では、本人が選べるように情報の量・表現・提示方法を調整する。意思決定を代行する前に、意思を表出しやすい環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0095

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：標準

歩行時にふらつきがあるCさんが「近所の公園まで歩きたい」と希望している。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．歩行状態や環境を評価し、本人と相談して見守りや福祉用具など安全な実現方法を検討する。
- イ．転倒の可能性があるため、今後の外出を一律に禁止する。
- ウ．本人が希望しているので、危険の評価をせず一人で外出してもらう。
- エ．事故が起きた場合の責任を避けるため、家族に判断を丸投げする。

答え・解説

正答：ア

ア：リスクを評価した上で、本人の希望をできるだけ実現できる方法を一緒に検討するのが適切である。

イ：危険をゼロにするための一律禁止は、生活の質や自己決定を不必要に制限する可能性がある。

ウ：自己決定を尊重しても、予測可能な危険への評価や支援を省略してよいわけではない。

エ：家族と相談することはあるが、専門職として評価し本人を中心に支援方針を考える責任がある。

総合解説：自立支援では「安全か自由か」の二者択一ではなく、リスクを具体化し、本人と共有して実現可能な方法を探る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0096

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：標準

介護計画の目標設定として、最も利用者主体であるものはどれか。

- ア．「職員が短時間で排泄介助を終えられるようにする」
- イ．「本人が自宅のトイレを使い続けたいという希望に沿い、できる動作を保つ」
- ウ．「家族が安心するため、本人の希望にかかわらず外出をなくす」
- エ．「転倒を完全になくすため、日中はベッド上で過ごしてもらう」

答え・解説

正答：イ

ア：職員の業務目標であり、本人の生活目標になっていない。

イ：本人が望む生活と現在の能力を結び付けた目標であり、自立支援の考え方に合う。

ウ：家族の安心だけを理由に本人の生活を一律に制限するのは利用者主体ではない。

エ：活動を過度に制限すると廃用やQOL低下につながる可能性があり、個別のリスク評価が必要である。

総合解説：介護の目標は、介護行為そのものではなく、支援によって本人がどのような生活を実現したいかという観点から設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0097

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：標準

長年、朝食前に新聞を読む習慣があるDさんが施設に入所した。個性を尊重する対応として最も適切なものはどれか。

ア．施設では全員同じ日課なので、習慣をやめてもらう。

イ．新聞は家族が持参できる日だけ許可する。

ウ．安全や他者への影響に問題がなければ、これまでの習慣を続けられるよう日課を調整する。

エ．施設生活への適応を優先し、本人には理由を説明せず日課を変更する。

答え・解説

正答：ウ

ア：集団生活でも、個人の生活歴や習慣を可能な範囲で尊重することが望ましい。

イ：本人の生活習慣を不必要に家族の都合へ依存させる必要はない。

ウ：本人らしい暮らしを支えるため、習慣や価値観をケアに反映するのが適切である。

エ：本人への説明なく一方的に変更することは、利用者主体の考え方に反する。

総合解説：利用者主体の介護では、施設の標準的な日課に本人を合わせるのではなく、生活歴・習慣・役割を可能な範囲で継続できるよう支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0098

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：標準

Eさんは「手すりを使って歩く練習を続けたい」と話しているが、家族は「危ないので車いすだけにしてほしい」と希望している。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

ア．家族の希望を優先し、本人には説明せず歩行を中止する。

イ．本人の希望だけを優先し、転倒リスクの評価は行わない。

ウ．意見が異なるため、介護職員は関与せず家族内で決めてもらう。

エ．本人の希望を確認し、リスクと能力を多職種で評価して、家族とも共有しながら方法を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：家族の心配は重要だが、本人の意思を確認せず生活を制限することは適切でない。

イ：本人の意思尊重と安全配慮は両立させる必要があり、評価を省略しない。

ウ：専門職は本人中心に意見調整と情報提供を行う役割があり、関与を放棄しない。

エ：本人の希望を中心に、客観的な評価と家族の不安も踏まえて支援方法を検討するのが適切である。

総合解説：家族との意見の違いがあっても、本人を意思決定の主体として扱い、専門職の評価を共有して合意形成を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0099

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：応用

夜間に何度も居室から出るFさんについて、職員が「転倒が心配なのでベッドから立てないようにしたい」と提案した。自立支援の観点から最も適切な初期対応はどれか。

ア．排泄、痛み、不安、生活リズム、環境など離床の理由を評価し、見守り方法や環境調整など代替策を検討する。

イ．転倒を防ぐため、本人の理由を確認せず常時ベッド上で過ごしてもらう。

ウ．職員数が少ない夜間だけ、本人への説明なく行動を制限する。

エ．事故が起こる可能性があるため、夜間の水分摂取を一律に減らす。

答え・解説

正答：ア

ア：行動には理由がある可能性があり、原因の評価と代替策の検討を先に行うことが本人の尊厳・自立支援に沿う。

イ：一律の行動制限は本人の自由や生活機能を損なう可能性があり、安易に選択しない。

ウ：人員配置上の都合だけを理由に本人の行動を制限することは適切でない。

エ：水分制限は脱水等の別のリスクを生み、離床理由を評価せず行うべきではない。

総合解説：リスクがある行動に対しては「行動を止める」だけでなく、背景要因を評価し、より制限の少ない支援で安全と自立の両立を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0100

介護の基本と連携 > 自立支援・利用者主体の介護 | 難易度：応用

施設で「朝6時に全員を起こす」という慣行が続いている。複数の利用者から「もっと眠りたい」と希望が出た。改善として最も適切なものはどれか。

ア．職員の勤務交代に合わせる必要があるため、希望は受け入れない。

イ．本人ごとの睡眠習慣や健康状態を確認し、必要な業務体制も見直して起床時間を個別化する。

ウ．一部だけ特別扱いになるので、全員を同じ時刻に起こし続ける。

エ．希望を聞くと業務が複雑になるため、家族の同意がある人だけ遅くする。

答え・解説

正答：イ

ア：組織運営上の事情はあるが、それだけで利用者の生活習慣を一律に決めるのは利用者主体ではない。

イ：本人の生活習慣を尊重し、必要に応じて業務方法も見直すことが個別ケアにつながる。

ウ：公平とは全員を同じに扱うことではなく、必要性や希望に応じた個別支援を行うことを含む。

エ：本人の生活に関する選択を家族同意の有無だけで決めるのは適切でない。

総合解説：利用者本位を実現するには、個々の希望に合わせてケアだけでなく事業所の慣行や業務手順を見直す視点も必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0101

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：基礎

多職種によるチームケアの目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．各職種が他職種の業務に関与せず、独立して支援すること。
- イ．利用者の生活目標を共有し、各職種の専門性を生かして総合的に支援すること。
- ウ．最も権限の強い職種の判断に全員が従うこと。
- エ．同じ支援を全職種が重複して行うこと。

答え・解説

正答：イ

ア：専門性を分断するのではなく、必要な情報と目標を共有して連携する。

イ：本人の目標を中心に、それぞれの専門性を補完し合うことがチームケアの目的である。

ウ：チームは一方的な指揮命令だけで成り立つものではなく、相互尊重と役割理解が必要である。

エ：役割を重複させることが目的ではなく、適切に役割分担しながら連携する。

総合解説：多職種連携では、利用者を中心に共通目標を持ち、各職種の専門性を組み合わせて支援の質を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0102

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：基礎

理学療法士（PT）の役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．介護保険の要介護認定を最終決定する。
- イ．義歯を製作する。
- ウ．基本動作や移動能力など身体機能を評価し、運動・動作練習を支援する。
- エ．処方箋に基づかず薬剤を調整する。

答え・解説

正答：ウ

ア：要介護認定は保険者の手続きに基づき決定され、PTが単独で最終決定するものではない。

イ：義歯の製作は歯科医療領域の業務である。

ウ：PTは起き上がり、立位、歩行など基本動作や身体機能に関する評価・リハビリテーションを担う。

エ：薬剤の処方・調整は医師・薬剤師等の専門領域であり、PTの役割ではない。

総合解説：介護福祉士は各職種の専門性を理解し、利用者の生活上の情報を共有して連携する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0103

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：基礎

食事中、Gさんに急に強いむせと声の変化がみられた。介護職員の対応として、チーム連携の観点から最も適切なものはどれか。

- ア．経過を数日見てからまとめて報告する。
- イ．食事量だけを記録し、症状は記録しない。
- ウ．介護職員だけで原因を診断して食形態を変更する。
- エ．安全を確保して状態を観察し、必要に応じて看護職等へ速やかに報告・相談する。

答え・解説

正答：エ

ア：急な状態変化は速やかな共有が必要であり、数日待つのは適切でない。

イ：食事量だけでなく、むせや声の変化など重要な観察情報を共有する。

ウ：介護職員が単独で医学的診断を行うのではなく、観察事実を専門職へ伝えて連携する。

エ：介護職員は生活場面の変化を早期に捉え、安全を確保したうえで適切な職種へ報告・相談する。

総合解説：チームケアでは、介護職員が日常生活の中で得た変化を具体的に伝えることが重要である。緊急性と重要性を判断し、適時に共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0104

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：標準

多職種カンファレンスで介護職員が共有する内容として、最も適切なものはどれか。

- ア．「昨日18時頃、食堂で立ち上がる際に右膝を押さえ、『痛い』と話した」のように観察事実を具体的に伝える。
- イ．「最近わがままになった」のように評価だけを伝える。
- ウ．他の利用者から聞いた噂を事実として伝える。
- エ．専門職がいるので、介護職員から生活場面の情報は出さない。

答え・解説

正答：ア

ア：日時・場面・行動・本人の発言などを具体的に共有すると、他職種が評価しやすい。

イ：価値判断だけでは状況が不明確で、チームで検討する情報として不足する。

ウ：根拠の不確かな情報は事実と区別し、必要性を吟味する。

エ：介護職員が日常生活で把握する情報は、チームにとって重要な評価材料である。

総合解説：多職種連携の情報共有では、観察事実、本人の発言、自分の判断を区別して具体的に伝えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0105

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：標準

Hさんの外出支援について、介護職とリハビリ職の意見が分かれています。チームとして最も適切な対応はどれか。

- ア．経験年数が長い職員の意見だけで決める。
- イ．Hさんの希望と共通目標を確認し、各職種の評価根拠を持ち寄って支援方法を検討する。
- ウ．意見が一致するまで外出希望を本人に伝えない。
- エ．対立を避けるため、各職種が別々の方針で支援する。

答え・解説

正答：イ

ア：経験年数だけで決めるのではなく、本人の目標と専門的根拠に基づいて検討する。

イ：利用者を中心に据え、各職種の見立てを共有して合意形成を図るのが適切である。

ウ：本人は意思決定の主体であり、専門職間の調整を理由に情報を隠すべきではない。

エ：異なる方針で別々に支援すると一貫性を欠き、事故や混乱の原因になり得る。

総合解説：チーム内の意見の違いは、本人の目標と客観的情報に立ち戻って調整する。多職種連携は「全員が同じ意見」ではなく、異なる専門性を統合する過程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0106

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：標準

チーム内で利用者情報を共有するときの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．関係職種なら、支援に関係しない私生活情報もすべて共有する。
- イ．口頭なら記録が残らないため、どの情報でも自由に共有してよい。
- ウ．支援目的に必要な情報を、適切な相手・方法・時期を選んで共有する。
- エ．個人情報保護のため、多職種間では利用者情報を一切共有しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：職務上関係があっても、支援目的に不要な情報まで無制限に共有するのは適切でない。

イ：媒体が口頭でも、個人情報の適切な取扱いが必要である。

ウ：目的・必要性・相手・方法を考えて共有することが、連携とプライバシー保護の両立につながる。

エ：必要な情報共有まで禁止すると、安全で継続的な支援が困難になる。

総合解説：多職種連携には情報共有が不可欠だが、必要性和目的を明確にし、プライバシー保護を踏まえた方法で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0107

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：標準

脳血管障害後のJさんに「言葉が出にくい」「飲み込みにくい」という変化がみられる。連携先として特に関連が深い専門職はどれか。

- ア．福祉用具専門相談員
- イ．建築士
- ウ．税理士
- エ．言語聴覚士（ST）

答え・解説

正答：エ

ア：福祉用具の選定には関わるが、言語・嚥下機能の専門的評価の中心ではない。

イ：住宅環境の設計には関わり得るが、言語・嚥下機能の評価を担う職種ではない。

ウ：税務の専門職であり、今回の生活機能の評価とは直接関係しない。

エ：STはコミュニケーションや摂食嚥下に関する評価・訓練を担い、介護職と連携する。

総合解説：介護職員は日常生活での変化を観察し、関連する専門職の役割を理解して適切に相談することが求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0108

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：標準

Kさんの食事量が減り、体重も減少している。原因はまだ明らかでない。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．食事場面の様子や嗜好、口腔状態、むせ、体重変化などを記録し、看護職や管理栄養士等と共有して評価する。
- イ．本人が食べないので、好みを確認せず高カロリー食品だけに変更する。
- ウ．介護職員だけで病名を推測し、食事を中止する。
- エ．体重減少は高齢者では普通なので、本人から訴えがなければ共有しない。

答え・解説

正答：ア

ア：食事量低下には多様な原因があり、生活場面の観察情報を整理して関連職種と連携するのが適切である。

イ：栄養量だけでなく、本人の嗜好・嚥下・口腔・疾病等を総合的に評価する必要がある。

ウ：介護職員が単独で診断するのではなく、観察と報告を通じて専門職と連携する。

エ：体重減少は重要な変化であり、早期に共有して原因評価につなげる。

総合解説：食事支援では、介護・看護・栄養・歯科・リハビリ等がそれぞれの専門性から評価し、本人の状態と希望に合わせて支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0109

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：応用

Lさんは施設から自宅へ戻ることを希望している。自宅には段差があり、服薬管理と移動にも支援が必要である。在宅復帰支援として最も適切なものはどれか。

ア．退所日だけ決め、各職種には退所後に必要事項を伝える。

イ．本人の生活目標を共有し、介護・看護・リハビリ・介護支援専門員等が住宅環境やサービス、健康管理を役割分担して検討する。

ウ．家族が同居していれば、専門職間の調整は不要とする。

エ．施設内で歩ければ自宅環境の確認は不要とする。

答え・解説

正答：イ

ア：退所前から情報共有と役割調整を行わなければ、在宅生活の継続性が損なわれる。

イ：本人を中心に、生活環境・健康・移動・サービス調整を多職種で統合することが重要である。

ウ：家族の存在だけで専門的支援が不要になるわけではない。

エ：施設内と自宅では環境が異なるため、実際の生活環境を踏まえた評価が必要である。

総合解説：在宅復帰は「退所できるか」だけでなく、本人が自宅で生活を継続できるかを多職種で評価し、支援をつなぐ過程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0110

介護の基本と連携 > 多職種連携・チームケア | 難易度：応用

チームケアにおける役割分担について、最も適切なものはどれか。

ア．専門職ごとの境界を厳格にし、他職種の考え方を知る必要はない。

イ．利用者に関する判断は一つの職種だけが行い、他職種は従う。

ウ．各職種が専門性を生かしながら相互の役割を理解し、重複や抜けを調整する。

エ．効率化のため、全職種が同じ業務を同じ方法で行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：専門性は重要だが、相互理解がなければ支援の断絶や情報の抜けが生じやすい。

イ：利用者支援は複数の視点を統合する必要がある、一職種への過度な集中は適切でない。

ウ：役割を明確にしつつ、互いの専門性を理解して調整することがチームケアの基本である。

エ：全員が同じ業務を行うことではなく、異なる専門性を補完し合うことに意味がある。

総合解説：多職種連携は「分業」と「協働」の両方を含む。誰が何を担うかを明確にし、必要な部分はつなぎ合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0111

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：基礎

家族介護者への支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．家族は介護サービスの補助者なので、本人のケアだけ考えればよい。
- イ．家族が介護を担っている場合は、疲労を訴えても役割を継続してもらう。
- ウ．家族の負担感や生活、就労、希望も把握し、必要な支援につなげる。
- エ．家族の支援は医療職だけの役割である。

答え・解説

正答：ウ

ア：家族も生活者であり、介護負担や就労等への支援が必要になることがある。

イ：介護負担を放置すると家族の健康や介護継続に影響するため、負担の把握が必要である。

ウ：本人だけでなく家族介護者も含めて支える視点が、地域での生活継続に重要である。

エ：家族支援は介護職を含む多職種・地域の関係機関が連携して行う。

総合解説：家族は「介護力」として評価されるだけの存在ではなく、支援を必要とする生活者でもある。家族の負担や希望を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0112

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：基礎

家族介護者支援における「レスパイト」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．家族に介護技術だけを反復練習してもらうこと。
- イ．家族が介護サービスの利用をやめること。
- ウ．家族が介護の責任を永久に放棄すること。
- エ．一時的に介護から離れて休息や自分の時間を確保できるよう支えること。

答え・解説

正答：エ

ア：介護技術の学習は支援の一つだが、レスパイトそのものではない。

イ：サービス利用をやめることではなく、むしろ短期入所等の社会資源を活用して休息を確保する場合がある。

ウ：家族関係を断つことではなく、介護負担を調整して継続可能性を高める支援である。

エ：レスパイトは家族介護者が一時的に介護から離れ、休息を得ることを意味する。

総合解説：レスパイトは家族介護者の心身の負担軽減に重要であり、短期入所や通所サービス、地域支援等と組み合わせ検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0113

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：基礎

在宅生活を支える地域の社会資源として、最も適切なものはどれか。

- ア．地域包括支援センター、配食サービス、住民ボランティアなど。
- イ．施設内の介護職員だけ。
- ウ．本人の預貯金だけ。
- エ．家族だけ。

答え・解説

正答：ア

ア：公的機関、介護サービス、民間サービス、住民活動など多様な地域資源を組み合わせることで生活を支える。

イ：介護職員は重要だが、地域生活は一つの職種だけで支えるものではない。

ウ：経済資源も生活に関係するが、社会資源はそれだけに限られない。

エ：家族は重要な支援者になり得るが、家族だけに依存しない支援体制が必要である。

総合解説：地域生活を支えるには、フォーマルサービスとインフォーマルな支えの双方を把握し、本人の希望に応じて活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0114

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：標準

Mさんは時間をかければ自分で食事できるが、家族は「こぼすので全部食べさせてほしい」と希望している。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．家族の希望どおり、本人の意思を確認せず全介助にする。
- イ．Mさんの希望と能力を確認し、必要な環境調整や部分介助を家族にも説明する。
- ウ．家族の意見は支援に一切関係しないので聞かない。
- エ．本人ができるため、疲労しても最後まで一切介助しない。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の能力と意思を無視して全介助にすると、自立機会を奪う可能性がある。

イ：本人を中心に、できることを生かす方法を家族と共有するのが適切である。

ウ：家族の心配や観察情報も支援を考えるうえで重要であり、対話が必要である。

エ：自立支援は放置ではなく、疲労や安全に応じて必要な介助を行う。

総合解説：本人と家族の意向が異なるときは、本人の意思と能力を中心に据えつつ、家族の不安や負担にも説明・支援を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0115

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：標準

在宅で夫を介護している妻が「最近ほとんど眠れず、もう限界です」と話した。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

ア．「家族なのだから頑張るしかない」と励ます。

イ．夫の前では言わないよう注意するだけにする。

ウ．妻の負担状況や安全を確認し、担当者へ共有して短期入所など利用可能な支援と一緒に検討する。

エ．介護を続ける意思が弱いと判断し、サービス利用を打ち切る。

答え・解説

正答：ウ

ア：精神論だけでは具体的な負担軽減ならず、状態悪化を見逃す可能性がある。

イ：言い方だけの問題にせず、家族介護者の心身状態と支援ニーズを把握する必要がある。

ウ：負担を具体的に把握し、多職種・地域資源と連携してレスパイト等につなげるのが適切である。

エ：疲労の訴えは支援が必要なサインであり、サービス中止の理由ではない。

総合解説：家族介護者の疲弊は、本人の在宅生活にも影響する。早期に把握し、休息・相談・サービス調整等につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0116

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：標準

地域包括支援センターの役割として、最も適切なものはどれか。

ア．介護保険料を全国一律に決定する。

イ．すべての高齢者の診療を直接行う。

ウ．介護施設の建築確認を行う。

エ．地域の高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防支援、地域の支援体制づくり等を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：介護保険料は保険者の制度運営に関わるもので、地域包括支援センターが全国一律に決定しない。

イ：医療機関ではなく、保健・福祉・介護等の総合的な相談・支援を担う機関である。

ウ：建築確認を行う行政機関ではない。

エ：総合相談、権利擁護、介護予防支援、包括的・継続的ケアマネジメント支援等を担う。

総合解説：地域包括支援センターは、市町村が設置する地域包括ケアの中核機関として、高齢者と家族の相談や地域ネットワークづくりを支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0117

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：標準

施設入所中のNさんが、長年参加してきた地域の祭りに行きたいと希望した。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．本人の希望、体調、移動手段、家族や地域の協力可能性を確認し、参加方法を検討する。
- イ．施設入所者は地域行事に参加しないのが原則と説明する。
- ウ．事故を避けるため、本人には祭りの日程を知らせない。
- エ．地域住民にすべての介助を任せ、施設側は関与しない。

答え・解説

正答：ア

ア：地域とのつながりは本人の生活の一部であり、必要な安全配慮と支援を調整して参加可能性を検討する。

イ：施設入所によって地域との関係を一律に断つ必要はない。

ウ：本人の選択機会を奪うため、情報を隠す対応は適切でない。

エ：地域との協力は有効だが、施設・専門職として必要な調整や責任を放棄しない。

総合解説：介護福祉士は、本人の地域での役割やつながりを尊重し、住民・家族・関係機関と協力して社会参加を支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0118

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：標準

Oさんの退所後の在宅生活について、家族が介護方法に不安を感じている。退所支援として最も適切なものはどれか。

- ア．退所当日に必要な説明をまとめて行う。
- イ．退所前から本人・家族の希望と負担を確認し、必要なサービスや住環境、緊急連絡先等を関係者と調整する。
- ウ．家族が不安を訴えているため、本人の希望にかかわらず退所を中止する。
- エ．在宅サービスは退所後に家族自身で探してもらう。

答え・解説

正答：イ

ア：退所直前だけの説明では、準備や練習、サービス調整の時間が不足する。

イ：本人・家族と早期に情報共有し、地域資源や支援体制を整えることが継続的な生活支援につながる。

ウ：家族の不安は調整すべき課題だが、それだけで本人の希望を一方的に否定しない。

エ：専門職は必要な情報提供と地域サービスへの橋渡しを行う役割がある。

総合解説：在宅移行では、本人の生活目標と家族の負担を同時に把握し、退所前から地域のサービス・医療・相談機関等につなぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0119

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：応用

認知機能が低下しているPさんの生活場所について、長男は施設入所、長女は在宅生活を希望して意見が対立している。Pさんは「できれば自宅で暮らしたい」と繰り返している。対応として最も適切なものはどれか。

ア．子どもの人数が多い方の意見を採用する。

イ．家族が決められないため、介護職員が単独で決定する。

ウ．Pさんの意思・選好をできる限り確認し、必要な支援条件を多職種と家族で具体化して検討する。

エ．認知機能が低下しているため、Pさんの発言は検討材料から除外する。

答え・解説

正答：ウ

ア：家族内の多数決が本人の最善の生活を保証するわけではない。

イ：専門職が単独で生活場所を決めるのではなく、本人の意思と関係者の情報を統合する。

ウ：本人の意思・選好を中心に、実現に必要な支援やリスクを具体化して合意形成を支える。

エ：認知機能の低下だけで本人の意思を無視せず、理解・表出を支援しながら確認する。

総合解説：家族間で意見が分かれる場面ほど、本人の意思決定支援を中心に置き、生活上の条件と支援資源を具体化して検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0120

介護の基本と連携 > 家族・地域との連携 | 難易度：応用

一人暮らしのQさんは「できる限り自宅で暮らしたい」と希望している。近隣との交流が減り、買い物と服薬確認に不安がある。支援として最も適切なものはどれか。

ア．家族が同居できなければ在宅生活は不可能と判断する。

イ．近所の一人にすべての見守り責任を依頼する。

ウ．介護保険サービスだけを利用し、地域活動や民間サービスは検討しない。

エ．本人の希望を確認し、訪問系サービス、配食、地域の見守り、医療・相談機関などを組み合わせて支援体制を作る。

答え・解説

正答：エ

ア：家族同居は在宅生活の唯一の条件ではなく、多様な社会資源で支えることができる。

イ：特定の住民だけに過度な責任を負わせるのは持続可能性に乏しい。

ウ：公的サービス以外の地域資源も本人の生活を支える重要な選択肢である。

エ：フォーマル・インフォーマルな資源を本人のニーズに合わせて組み合わせることが適切である。

総合解説：地域包括ケアでは、本人が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療・介護・生活支援・住民活動等のネットワークを活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0121

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：基礎

介護現場におけるリスクマネジメントの目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．事故を予防し、発生時の被害を最小化しながら、利用者の生活の質や自立も支えること。
- イ．事故をゼロにするため、利用者の活動を可能な限り制限すること。
- ウ．事故が起きた職員を特定して処分すること。
- エ．事故情報を外部に知られないようにすること。

答え・解説

正答：ア

ア：リスクを組織的に把握・分析し、予防と適切な対応を行いつつ、ケアの質を高めることが目的である。

イ：過度な活動制限は自立やQOLを損ねる可能性があり、リスク管理の目的ではない。

ウ：個人の責任追及だけでは再発防止につながりにくく、システム要因の分析が必要である。

エ：必要な報告・共有を避けることは、再発防止や信頼確保に反する。

総合解説：介護のリスクマネジメントは「事故を隠す」「活動を止める」ことではなく、危険を予測し、組織的に改善して安全と生活の質を両立させる取組である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0122

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：基礎

ヒヤリハット事例を報告する主な意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．事故になっていないため、記録せず忘れること。
- イ．事故に至る前の危険要因を共有・分析し、再発や重大事故の予防に生かすこと。
- ウ．報告した職員の評価を下げること。
- エ．利用者に過失があったことを証明すること。

答え・解説

正答：イ

ア：ヒヤリハットは事故予防に有用な情報であり、共有しないと同じ危険が繰り返される。

イ：重大事故に至らなかった事例から危険要因を学び、環境・手順・教育等を改善することが目的である。

ウ：報告を処罰目的にすると報告が減り、安全文化を損なう可能性がある。

エ：責任を利用者に帰すためのものではなく、事故予防のために原因を分析する。

総合解説：ヒヤリハットは「事故にならなかったから問題なし」ではない。小さな兆候を収集して組織的な予防に結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0123

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：基礎

利用者が廊下で転倒した直後の介護職員の対応として、最も優先すべきものはどれか。

- ア．事故報告書を先に完成させる。
- イ．家族へ原因を推測して説明する。
- ウ．周囲の安全を確保し、利用者の状態を確認して必要な応援・医療につなぐ。
- エ．その場を片付けてから利用者の様子を見る。

答え・解説

正答：ウ

ア：記録は必要だが、まず利用者の安全と状態確認が優先される。

イ：原因が確定していない段階で推測を事実のように伝えるべきではない。

ウ：事故直後は二次事故を防ぎ、利用者の状態を確認して必要な対応を行うことが最優先である。

エ：環境整理より利用者の安全確保・状態確認を先に行う。

総合解説：事故発生時は、利用者の安全確保と必要な対応を最優先し、その後に報告・連絡・記録・原因分析へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0124

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：基礎

転倒予防策として、最も適切なものはどれか。

- ア．転倒歴のある利用者は全員、日中もベッド上で過ごしてもらう。
- イ．全利用者に同じ高さの歩行器を使ってもらう。
- ウ．職員の見守りが難しい時間帯は、全員の歩行を禁止する。
- エ．本人の身体機能、薬剤、履物、環境、行動パターンなどを評価し、個別に対策する。

答え・解説

正答：エ

ア：活動を一律に制限すると生活機能やQOL低下につながるため、個別評価が必要である。

イ：福祉用具は身体状況に合わせて選定・調整する必要がある。

ウ：人員都合だけで一律に歩行を禁止するのは適切でない。

エ：転倒には複数の要因が関係するため、本人・環境・ケア方法を総合的に評価する。

総合解説：事故予防は「危険行動を禁止する」ことではなく、事故の起こりやすい条件を具体的に見つけて、個別の対策を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0125

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：標準

Rさんが居室で尻もちをついた。本人は「大丈夫」と話し、外見上の出血はない。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．本人の状態を観察し、施設の手順に沿って必要な報告・連絡を行い、経過も記録する。
- イ．本人が大丈夫と言っているため、誰にも報告しない。
- ウ．早く立たせるため、一人で腕を強く引いて起こす。
- エ．外傷が見えないため、その場で事故記録を破棄する。

答え・解説

正答：ア

ア：外見上異常がなくても、状態変化の有無を観察し、決められた手順で報告・記録する。

イ：本人の訴えだけで影響がないと断定せず、事故情報を共有する必要がある。

ウ：骨折等の可能性も考え、状態確認前に無理に起こさない。

エ：事故情報は再発防止にも重要であり、外傷の有無だけで記録不要とはならない。

総合解説：転倒後は、直後だけでなく経過観察が必要なことがある。施設の事故対応手順に沿って、状態・対応・経過を正確に記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0126

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：標準

介護事故の原因分析として、最も適切なものはどれか。

- ア．「注意不足だった」で分析を終了する。
- イ．本人要因、環境要因、手順、情報共有、設備、勤務体制など複数の要因を検討する。
- ウ．事故を起こした職員の性格だけを調べる。
- エ．同じ事故が起きていない他部署には共有しない。

答え・解説

正答：イ

ア：個人の注意だけに原因を限定すると、再発防止策が「気を付ける」だけになりやすい。

イ：事故は複数要因が重なって起こることがあり、システム全体から分析することが重要である。

ウ：性格評価は具体的な再発防止に結び付きにくく、組織的要因も確認する。

エ：他部署でも応用できる学びは共有し、組織全体の安全向上に生かす。

総合解説：事故分析では「誰が悪いか」より「なぜ起きたか」「同じ条件なら再発しないか」を検討し、実行可能な改善策につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0127

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：標準

服薬介助の直前、薬包の氏名が利用者の氏名と違うことに介護職員が気づいた。最も適切な対応はどれか。

- ア．同じ薬に見えるので、そのまま服用してもらう。
- イ．本人が「いつもの薬」と言えば服用してもらう。
- ウ．服用をいったん止め、薬包と利用者を再確認し、決められた手順で看護職等へ報告・確認する。
- エ．間違いが疑われる薬包を捨て、報告しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：見た目だけで同じ薬と判断するのは危険である。

イ：本人の認識だけで安全確認を代替せず、記載内容と手順に基づいて確認する。

ウ：不一致に気づいた時点で中止し、誤薬を防ぐために確認・報告するのが適切である。

エ：独断で廃棄すると事実確認が困難になり、原因分析や再発防止にもつながらない。

総合解説：服薬に関する異常や不一致を見つけた場合は、推測で進めず、一旦止めて確認・報告する。安全確認を手順化することが誤薬防止に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0128

安全・リスクマネジメント > 事故防止・リスク管理 | 難易度：標準

入浴介助前の安全確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．湯温は前日の設定と同じなら確認しない。
- イ．入浴を急ぐため、本人の体調確認を省略する。
- ウ．本人が何も言わなければ、浴室床の濡れはそのままにする。
- エ．本人の体調、湯温、浴室の床や手すり、移動方法などを確認してから介助する。

答え・解説

正答：エ

ア：設定が同じでも実際の湯温を確認し、やけど等を予防する。

イ：入浴は身体への負担もあるため、当日の体調確認が必要である。

ウ：濡れた床は滑りやすく、転倒リスクになるため環境整備が必要である。

エ：本人と環境の両面を確認して具体的なリスクを減らすのが適切である。

総合解説：事故予防では、介助手順だけでなく、利用者のその日の状態と環境条件を毎回確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0129

安全・リスクマネジメント> 事故防止・リスク管理 | 難易度：標準

ベッドから車いすへ移乗する前の確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．車いすのブレーキ、フットサポート、位置、床面などを確認し、本人の能力に合う方法を選ぶ。
- イ．移乗時間を短縮するため、ブレーキはかけずに介助する。
- ウ．足元が見えなくても、本人が慣れているので確認しない。
- エ．毎回同じ介助方法を使い、本人の体調変化は考慮しない。

答え・解説

正答：ア

ア：車いすの固定や周囲環境、本人の状態を確認することは転倒・転落防止の基本である。

イ：ブレーキをかけないと車いすが動き、転倒につながる危険がある。

ウ：足元の障害物や履物なども確認し、環境要因を減らす。

エ：同じ利用者でも体調や能力は変化するため、毎回の評価が必要である。

総合解説：移乗の安全は、福祉用具の状態、環境、本人の身体機能、理解度を総合して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0130

安全・リスクマネジメント> 事故防止・リスク管理 | 難易度：標準

同じ時間帯に転倒のヒヤリハットが繰り返し報告されている。事業所の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．報告件数が多い職員だけに注意書きを渡す。
- イ．発生場所・時間・行動・人員配置等の傾向を分析し、対策を実施して効果を確認する。
- ウ．重大事故ではないため、データを廃棄する。
- エ．個別事例なので、事業所全体の改善には使わない。

答え・解説

正答：イ

ア：報告者を責めるだけでは、共通する要因を見逃す可能性がある。

イ：複数事例を集積して傾向を把握し、対策の実施・評価まで行うことが組織的リスクマネジメントである。

ウ：ヒヤリハットも事故予防に有用な情報であり、廃棄すべきではない。

エ：個別事例の蓄積から組織的課題を発見できるため、全体改善に活用する。

総合解説：安全管理は、報告→分析→対策→評価という循環で進める。対策を実施しただけで終わらず、事故・ヒヤリハットが減ったか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0131

安全・リスクマネジメント> 事故防止・リスク管理 | 難易度：応用

転倒を繰り返すSさんについて「車いすから立てないようにすれば安全だ」という意見が出た。リスクマネジメントとして最も適切な考え方はどれか。

ア．転倒歴があれば、本人の意思にかかわらず身体拘束を常時行う。

イ．職員が忙しい時間帯だけなら、理由を検討せず拘束してよい。

ウ．転倒の背景要因を評価し、環境調整・見守り・福祉用具等の代替策を検討し、拘束に頼らない安全確保を優先する。

エ．家族が同意すれば、他の方法を検討する必要はない。

答え・解説

正答：ウ

ア：転倒歴だけで一律に身体拘束を正当化することはできない。

イ：人員都合を理由に安易な拘束を行わず、まずリスク要因と代替策を検討する。

ウ：本人の尊厳と生活機能を守りながら安全を高めるため、より制限の少ない方法を優先する。

エ：家族の同意があっても、本人の権利や必要性を踏まえ、他の方法の検討が必要である。

総合解説：事故防止の名目で活動や自由を過度に制限すると、別の害を生むことがある。リスクの原因を分析し、本人の生活を支える代替策を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0132

安全・リスクマネジメント> 事故防止・リスク管理 | 難易度：応用

介護老人福祉施設でサービス提供中に重大な事故が発生した。施設の事故対応として最も適切なものはどれか。

ア．利用者への対応より先に、責任者を決める会議を開く。

イ．家族には不安を与えるため、事故の事実を伝えない。

ウ．事故の原因が確定するまで、必要な連絡や記録を行わない。

エ．利用者に必要な措置を行い、定められた手順に沿って家族・市町村等へ連絡し、状況と対応を記録して再発防止につなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：まず利用者への必要な対応が優先であり、責任追及を先行させない。

イ：事故発生時には必要な連絡を適切に行うことが求められる。

ウ：原因分析と並行して、必要な報告・記録は速やかに行う。

エ：現行の運営基準では、必要な措置、家族・市町村等への連絡、状況・処置の記録、再発防止の体制が求められている。

総合解説：事故対応は、利用者の安全確保、必要な連絡・記録、原因分析、再発防止までを一連の組織的プロセスとして行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0133

安全・リスクマネジメント＞感染対策・衛生管理 | 難易度：基礎

標準予防策（スタンダード・プリコーション）の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．感染症と診断された人だけに実施する。
- イ．職員の手が汚れて見えるときだけ実施する。
- ウ．高齢者施設では不要である。
- エ．すべての人の血液・体液等には感染性がある可能性を考え、必要な予防策を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：診断の有無だけでなく、すべての利用者に対して基本的な感染対策を適用する。

イ：目に見える汚れがなくても手指に微生物が付着していることがある。

ウ：介護現場でも感染対策の基本として重要である。

エ：血液・体液・分泌物・排泄物等への曝露リスクに応じて手指衛生や個人防護具を用いる考え方である。

総合解説：標準予防策は、感染症の有無が分からない段階から日常的に行う基本的感染対策である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0134

安全・リスクマネジメント＞感染対策・衛生管理 | 難易度：基礎

介護場面の手指衛生について、最も適切なものはどれか。

- ア．手袋を使用した場合も、外した後は必要な手指衛生を行う。
- イ．手袋をしていれば、同じ手袋のまま複数の利用者を介助してよい。
- ウ．手袋は破れていなければ一日中使用できる。
- エ．手指消毒を行えば、目に見える汚れがあっても手洗いは不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：手袋は手指衛生の代わりではなく、外した後も手指衛生を行う。

イ：利用者ごと・ケア内容ごとに交換し、交差感染を防ぐ必要がある。

ウ：使い捨て手袋は適切なタイミングで交換する。

エ：目に見える汚れがある場合などは、石けんと流水による手洗いが必要である。

総合解説：感染対策の基本は手指衛生であり、手袋は曝露を減らす補助手段である。手袋の着脱前後にも適切な手指衛生が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0135

安全・リスクマネジメント＞感染対策・衛生管理 | 難易度：基礎

ノロウイルスが疑われる利用者の嘔吐物を処理した後の手指衛生として、最も適切なものはどれか。

- ア．手袋をしていたので、手指衛生は不要である。
- イ．手袋を外し、石けんと流水で十分に手を洗う。
- ウ．香水をつけて臭いを消す。
- エ．乾いたタオルで拭くだけにする。

答え・解説

正答：イ

ア：手袋を使用しても、外す際などに手が汚染される可能性がある。

イ：ノロウイルス対策では、汚物処理後に石けんと流水による手洗いを徹底することが重要である。

ウ：香水には病原体を除去する効果はない。

エ：乾拭きだけでは手指に付着したウイルスを十分に除去できない。

総合解説：嘔吐物・排泄物を扱った後は、手袋を外した後の手洗いが重要である。ノロウイルスではアルコール消毒だけに依存しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0136

安全・リスクマネジメント＞感染対策・衛生管理 | 難易度：標準

Tさんのおむつ交換を終えた直後、隣のUさんの食事介助を行うことになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．使用した手袋のまま食事介助へ移る。
- イ．手袋だけ交換し、手指衛生は省略する。
- ウ．手袋を適切に外して手指衛生を行い、必要に応じて新しい防護具を用いて次のケアへ移る。
- エ．時間がないため、衣服に付いた汚染はそのままにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：同じ手袋を別の利用者・別のケアに使うと交差感染の危険が高まる。

イ：手袋の交換だけでなく、着脱時の汚染を考えて手指衛生が必要である。

ウ：ケアの区切りで手指衛生と防護具の交換を行うことで、清潔な食事介助へ移れる。

エ：衣服が汚染された場合は適切に交換・対応し、清潔域へ汚染を持ち込まない。

総合解説：感染対策では「一人の利用者内」でも清潔なケアと汚染の可能性が高いケアを区別し、ケア間で手指衛生や防護具交換を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0137

安全・リスクマネジメント＞感染対策・衛生管理 | 難易度：標準

食堂で利用者が突然嘔吐した。感染拡大を防ぐ初期対応として、最も適切なものはどれか。

ア．乾いたほうきで吐物を集め、空中に舞い上げる。

イ．他の利用者に近づいて見てもらいながら処理する。

ウ．家庭用掃除機で吸い取る。

エ．周囲への立入りを控え、必要な個人防護具を用いて施設の手順に従い、吐物を飛散させないように処理・消毒する。

答え・解説

正答：エ

ア：乾燥した吐物を舞い上げると、周囲を汚染する危険がある。

イ：他の利用者を近づけず、曝露範囲を広げないことが重要である。

ウ：掃除機は汚染を拡散させる可能性があり、吐物処理には適さない。

エ：PPEを用い、区域管理と適切な処理・消毒を行うことが感染拡大防止につながる。

総合解説：嘔吐物処理では、処理者の防護、周囲への拡散防止、適切な廃棄・消毒、処理後の手洗いを一連の手順として行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0138

安全・リスクマネジメント＞感染対策・衛生管理 | 難易度：標準

Vさんに発熱と咳がみられ、同じユニットでも似た症状の人がいる。介護職員の対応として最も適切なものはどれか。

ア．症状や発生状況を確認し、速やかに管理者・看護職等へ報告して施設の感染対策手順に従う。

イ．診断がつくまで職員間で情報共有しない。

ウ．介護職員が感染症名を確定し、独自に全員の薬を変更する。

エ．症状のある利用者だけにマスクを渡し、他の対策は不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：複数人に症状があれば集団発生の可能性も考え、早期に情報を集約して対応する。

イ：診断確定前でも、感染拡大を防ぐために必要な報告と基本対策を行う。

ウ：診断や薬剤変更を介護職員が単独で行うものではなく、医療職等と連携する。

エ：マスクだけでは不十分な場合があり、手指衛生、環境整備、動線等を含めた対策が必要である。

総合解説：感染症対策では、日常の健康観察から異常の集積を早期に把握し、組織内で情報共有して対策を開始することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0139

安全・リスクマネジメント > 感染対策・衛生管理 | 難易度：標準

施設内で感染症の発生が続いている。感染拡大を抑えながら必要な介護を継続する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．感染者のケア後、そのまま同じ防護具で非感染者のケアを行う。
- イ．感染状況に応じて区域・動線・担当を整理し、防護具交換や手指衛生を徹底しながら必要なケアを継続する。
- ウ．感染対策のため、食事や排泄介助をすべて中止する。
- エ．感染者と非感染者の居室を頻繁に入れ替える。

答え・解説

正答：イ

ア：防護具を交換せずにケアを続けると、交差感染につながる。

イ：汚染区域と清潔区域を区別し、動線や担当を工夫することで感染対策とケア継続を両立する。

ウ：生命・生活維持に必要な介護を一律に中止するのではなく、感染対策を強化して継続する。

エ：不要な移動は接触機会を増やすため、状況に応じて最小限にする。

総合解説：感染拡大時には、感染経路を意識して人・物・職員の動きを整理する。介護サービスの継続性もBCPの観点から重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0140

安全・リスクマネジメント > 感染対策・衛生管理 | 難易度：標準

手洗い後の手拭き方法として、感染対策上最も適切なものはどれか。

- ア．利用者全員で一枚の布タオルを一日中共用する。
- イ．汚れたタオルでも乾いていれば再使用する。
- ウ．使い捨てペーパータオルや個人専用の清潔なタオルなど、共用による汚染を避ける方法を用いる。
- エ．手を自然乾燥させるため、濡れた手で共用物品を触る。

答え・解説

正答：ウ

ア：共用タオルは手指間の微生物伝播につながる可能性がある。

イ：見た目や乾燥だけでは清潔を保証できず、適切な交換・洗濯が必要である。

ウ：個人専用または使い捨てを用いて交差感染の機会を減らす。

エ：濡れた手で共用物品に触れると環境汚染を広げる可能性がある。

総合解説：衛生管理では、手指衛生後に再汚染しない方法まで含めて考える。共用物品の管理も感染経路遮断の重要な要素である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0141

安全・リスクマネジメント > 感染対策・衛生管理 | 難易度：応用

感染症と診断されたWさんの介護について、最も適切な考え方はどれか。

- ア．感染者という理由だけで、必要な介護や人との関わりを可能な限りなくす。
- イ．感染症名にかかわらず、すべて同じ防護具を常時使用する。
- ウ．感染対策は看護職だけの役割なので、介護職員は通常どおり対応する。
- エ．本人の尊厳と必要なケアを維持し、標準予防策に加えて感染経路・症状に応じた対策を組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

- ア：感染対策のためでも、必要な生活支援を不必要に奪わず、隔離による心理社会的影響にも配慮する。
- イ：感染経路やケア内容に応じて必要な防護具は異なる。
- ウ：介護職員も感染予防の重要な担い手であり、チームで実践する。
- エ：標準予防策を基礎に、接触・飛沫等の感染経路に応じた追加対策を行うのが適切である。

総合解説：感染対策は「感染者を遠ざける」ことではなく、感染経路を遮断しながら尊厳ある生活と必要なケアを継続することである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0142

安全・リスクマネジメント > 感染対策・衛生管理 | 難易度：応用

ノロウイルスが疑われる嘔吐物を処理した後の感染対策について、最も適切なものはどれか。

- ア．手袋を外した後、石けんと流水による手洗いをを行い、環境は施設の手順に従って適切に処理・消毒する。
- イ．アルコール手指消毒だけを行えば、手洗いも環境処理も不要である。
- ウ．嘔吐物が乾くまで放置してから片付ける。
- エ．処理に使用した物品を清潔な物品と同じ場所に置く。

答え・解説

正答：ア

- ア：ノロウイルスでは手洗いによる物理的除去が重要であり、環境の適切な処理・消毒も必要である。
- イ：アルコールだけで全ての対策を代替できるわけではない。
- ウ：乾燥させると汚染が広がる可能性があるため、速やかに適切な方法で処理する。
- エ：汚染物品と清潔物品を分け、交差汚染を防ぐ必要がある。

総合解説：ノロウイルス対策では、吐物・便からの二次感染を防ぐため、PPE、速やかな処理、適切な消毒、石けんと流水による手洗いを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0143

安全・リスクマネジメント＞災害・緊急時対応 | 難易度：基礎

介護事業所における業務継続計画（BCP）の目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．感染症や災害が発生しても、必要な介護サービスを可能な限り継続し、早期に業務を再開できるよう備えること。
- イ．災害時はすべての介護サービスを無期限に中止すること。
- ウ．非常時の責任を一人の職員だけに集中させること。
- エ．計画を作成したら、訓練や見直しを行わないこと。

答え・解説

正答：ア

ア：BCPは、非常時でも重要業務を継続し、限られた資源で早期復旧を図るための計画である。

イ：一律停止ではなく、優先業務を選定して可能な限り継続する。

ウ：役割分担や連絡体制をあらかじめ定め、組織として対応する。

エ：計画は研修・訓練・見直しによって実効性を高める必要がある。

総合解説：介護サービスは利用者の生活・生命に直結するため、災害や感染症発生時にも継続性を確保するBCPが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0144

安全・リスクマネジメント＞災害・緊急時対応 | 難易度：基礎

非常災害対策について、最も適切なものはどれか。

- ア．避難経路を知っている職員が一人いれば、他職員への周知は不要である。
- イ．具体的な計画を職員に周知し、定期的に避難・救出等の訓練を行って必要に応じて見直す。
- ウ．訓練は実際の災害が起きてから行う。
- エ．地域住民との連携は避ける。

答え・解説

正答：イ

ア：非常時には複数職員が行動できるよう、計画の共有が必要である。

イ：現行基準では非常災害計画、連絡体制、周知、訓練が求められ、地域との連携にも努める。

ウ：災害前に訓練し、課題を発見して改善することが重要である。

エ：施設によっては地域住民の協力が重要であり、訓練への参加等の連携が望まれる。

総合解説：防災計画は書類として保管するだけでは不十分である。実際に動けるように訓練し、課題を計画へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0145

安全・リスクマネジメント＞災害・緊急時対応 | 難易度：標準

大規模地震で職員数が減り、物資も限られている。事業所の初動として最も適切なものはどれか。

ア．通常時の行事予定を優先して継続する。

イ．すべての業務を通常どおり同じ人数・方法で実施しようとする。

ウ．利用者と職員の安全を確認し、食事・水分・排泄・医療上必要な支援など優先業務を選定して人員と物資を配分する。

エ．記録業務だけを優先し、利用者の状態確認を後回しにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：非常時は通常の行事より生命・生活維持に直結する業務を優先する。

イ：人員・物資が限られる状況では、優先順位を決めて業務を継続するのがBCPの考え方である。

ウ：安全確認と重要業務の選定・資源配分を行うことが適切である。

エ：記録も必要だが、利用者の安全・健康維持が優先される。

総合解説：BCPでは、限られた資源の中で「何を優先して継続するか」を事前に決める。災害時は優先業務へ資源を集中する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0146

安全・リスクマネジメント＞災害・緊急時対応 | 難易度：標準

河川氾濫の危険が高まっている地域の施設で、多くの利用者に移動介助が必要である。避難対応として最も適切なものはどれか。

ア．浸水が始まるまで避難準備をしない。

イ．避難先は災害発生後に初めて探す。

ウ．職員の自家用車だけを頼りにする。

エ．ハザード情報や避難情報、利用者の移動能力、必要な医療・介護、移送手段を踏まえ、事前に定めた基準で早めに避難準備・開始を判断する。

答え・解説

正答：エ

ア：要介護者の避難には時間がかかるため、浸水後の開始では危険が高い。

イ：避難先やルート、受入先は平時から確認しておく。

ウ：一つの移送手段だけに依存せず、代替手段や関係機関との連携を検討する。

エ：利用者特性と地域の災害リスクを踏まえ、早期避難できる計画を準備することが重要である。

総合解説：介護施設では避難に時間を要する人が多いため、災害が迫ってから考えるのではなく、平時から避難判断・移送方法・受入先を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0147

安全・リスクマネジメント＞災害・緊急時対応 | 難易度：標準

台風で施設が停電した。電気を必要とする医療・介護機器を使用している利用者がいる。初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．利用者の安全と機器の稼働状況を確認し、BCPに基づいて非常用電源や代替手段、医療職・関係機関への連絡を行う。

イ．停電は復旧するまで待ち、機器の確認をしない。

ウ．電力節約のため、生命維持に関係する機器から停止する。

エ．利用者には説明せず、職員全員が帰宅する。

答え・解説

正答：ア

ア：停電時は生命・健康への影響が大きい利用者や設備を優先して確認し、代替手段を確保する。

イ：復旧を待つだけでは危険であり、現在の安全と継続方法を確認する必要がある。

ウ：重要機器を優先して電力を配分し、不要不急の電力使用を抑える。

エ：事業所として継続体制を確保し、必要な説明・連携を行う。

総合解説：災害時の電力喪失は、利用者によって生命に直結する。BCPで重要設備、非常用電源、連絡先、代替策を事前に整理しておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0148

安全・リスクマネジメント＞災害・緊急時対応 | 難易度：標準

廊下で利用者が倒れており、呼びかけに反応がない。介護職員の初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．まず家族へ電話し、指示を待つ。

イ．周囲の安全を確認して反応を確認し、応援を求めて119番通報とAEDを依頼し、呼吸を確認して必要な心肺蘇生につなげる。

ウ．本人を一人で居室まで運んでから状態を確認する。

エ．反応がないが脈を正確に30秒測るまで119番通報しない。

答え・解説

正答：イ

ア：家族連絡より、生命に関わる急変への救命対応が優先される。

イ：消防庁の基本的手順に沿い、安全確認、反応確認、応援・119・AED、呼吸確認、必要な心肺蘇生へつなげる。

ウ：無理な移動は対応を遅らせたり二次事故につながる可能性がある。

エ：一般市民向け手順では、反応がなければ早期に119番通報とAEDを依頼し、普段どおりの呼吸の有無を確認する。

総合解説：介護職員は事業所の緊急時手順と救命講習に基づき、急変を早期に認識して応援・救急要請・AED・心肺蘇生へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0149

安全・リスクマネジメント > 災害・緊急時対応 | 難易度：応用

夜間、施設の一室から煙が出ていることに職員が気づいた。対応として最も適切なものはどれか。

ア．火元を確認するため、濃い煙の中へ一人で入る。

イ．利用者に知らせると混乱するため、警報や応援要請はしない。

ウ．周囲へ火災を知らせ、119番通報・応援要請を行い、施設の消防・避難計画に従って煙や火から利用者を安全な方向へ避難させる。

エ．まず事故報告書を作成してから避難を始める。

答え・解説

正答：ウ

ア：職員自身が危険にさらされる行動は、救助不能や二次被害につながる。

イ：火災時は早期の通報・周知・応援要請が重要である。

ウ：安全を確保しながら、計画に沿って通報と避難を迅速に行うことが適切である。

エ：記録は必要だが、生命の安全を確保する行動が最優先である。

総合解説：火災対応では、職員自身の安全も確保しつつ、早期通報・初期対応・避難を施設の計画に沿って組織的に実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0150

安全・リスクマネジメント > 災害・緊急時対応 | 難易度：応用

大雨災害の後、施設は一時的に地域の避難者も受け入れた。今後の対応として最も適切なものはどれか。

ア．災害が終わったので、対応記録や振り返りは不要とする。

イ．地域住民との連携は例外だったとして、今後は一切協力しない。

ウ．避難者や利用者の個人情報を詳細にSNSで公開する。

エ．利用者の継続ケアを確保しつつ、行政・地域・関係機関と必要な情報を適切に共有し、対応を振り返ってBCPや訓練内容を改善する。

答え・解説

正答：エ

ア：災害後の振り返りは、計画の弱点や改善点を見つけるために重要である。

イ：地域との連携は災害対応力を高めるため、平時から関係づくりを行う意義がある。

ウ：個人情報は必要性和範囲を考えて扱い、不特定多数へ詳細を公開しない。

エ：継続ケア、関係機関との連携、振り返りと計画改善まで行うことが次の災害への備えとなる。

総合解説：BCPは一度作って終わりではない。実際の災害や訓練から得た課題を記録し、関係機関と共有できる範囲を整理して継続的に改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04